

一宮ふれあいセンター及び三里ふれあいセンター トイレ改修機械設備工事

一宮ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事

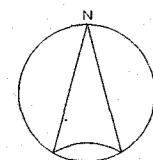
図面目次		
番号	図面名称	縮尺
M-01	特記仕様書（1）	——
M-02	特記仕様書（2）	——
M-03	配置図・附近見取図・工事概要	S=1:200
M-04	既設・改修 1階平面図	S=1:100
M-05	既存・改修 換気設備 1階平面詳細図	S=1:50
M-06	既設 衛生設備 1階トイレ平面詳細図	S=1:50
M-07	改修 衛生設備 1階トイレ平面詳細図	S=1:50

有限会社 常石設備設計室

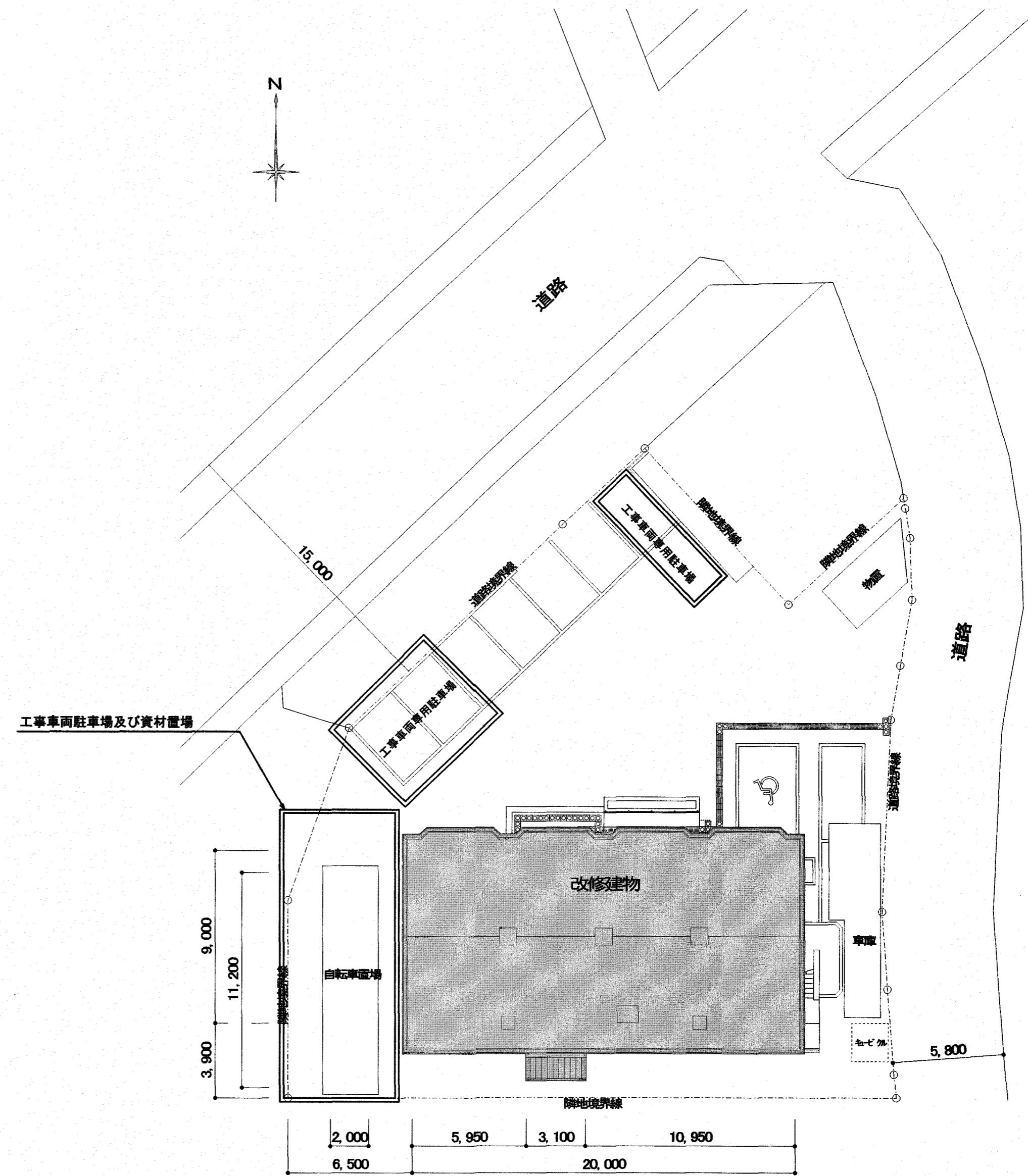
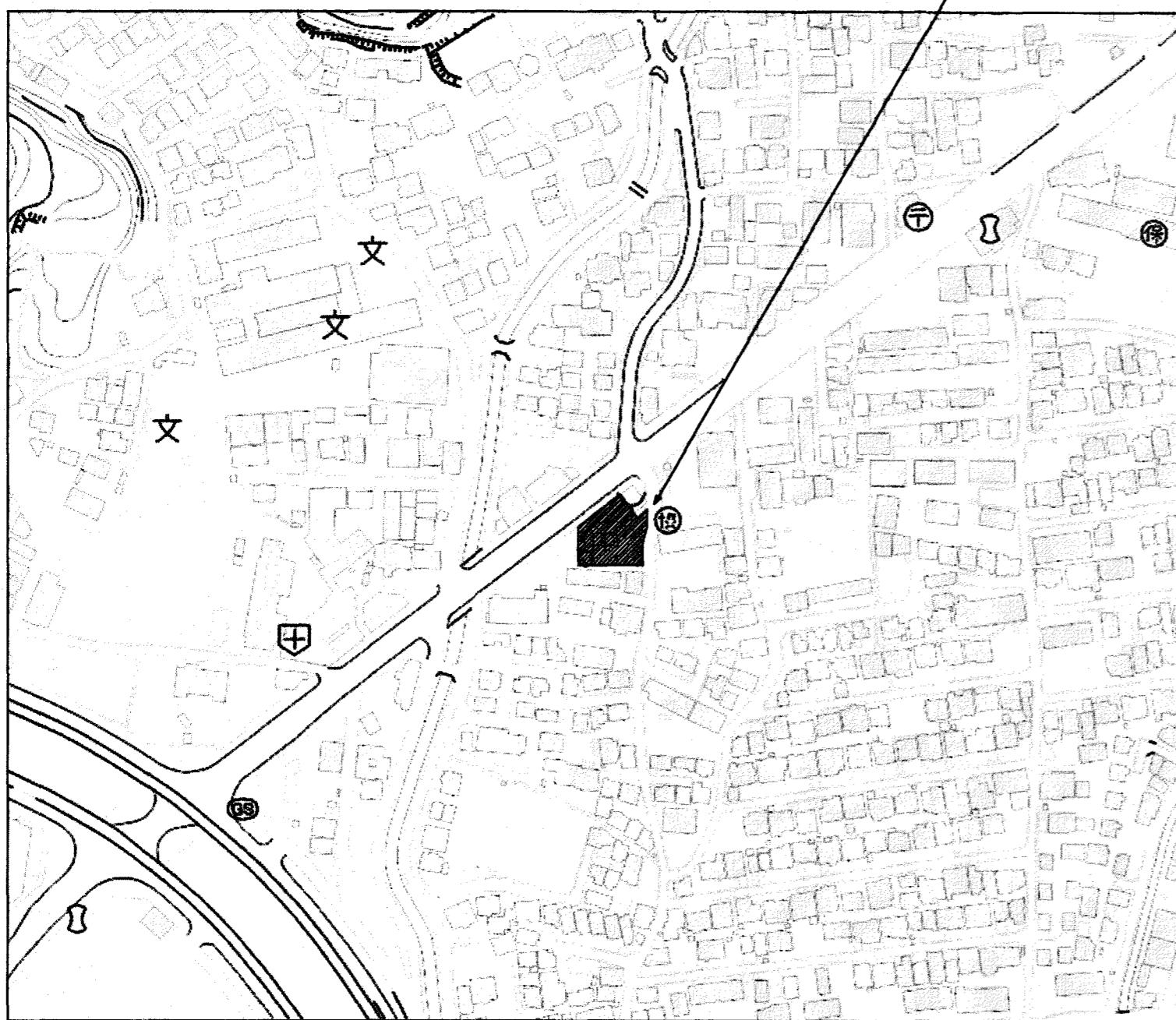
一宮ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事 特記仕様書							項目	特記事項			項目	特記事項									
Ⅰ 工事概要	1. 工事場所	高知市一宮中町一丁目5番20号	2. 建物概要	建物名称	構造	面積	建築基準法に基づく延べ面積	消防法施行令別表第一	都市計画法に基づく用途地域	備考	記載人員の資格	23 特別な材料の工法	公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承諾を受けて当該材料製造の指定する工法による。								
一宮ふれあいセンター	RC	3	561m ²								1名以上／1班は交通誘導警備業務に係る検定合格者（1級又は2級）を配置する工事。 ※ 交通誘導に際し、1名以上／1班は専門的な知識及び技能を有する警備員等を配置する工事。	24 技能士の適用	本工事に該当する工事種目に応じて、下記项目的技能士を適用し、資格を証明する資料を監督職員に提出する。 a) 計画施工（配管工事） b) 熱絶縁施工（保溫工事） c) 産業板金施工（ダクト製作及び取付） d) 冷凍空気調和機器施工	(1.5.2) [1.6.2]							
3. 工事項目	1. 一宮ふれあいセンター	1. 換気設備	一式	4 排水設備	一式	2. 衛生器具設備	一式	5 撤去工事	一式	3. 給水設備	一式	6 発生材処理	一式	1, 2級交通誘導警備員（交通誘導警備員A）	交通誘導警備員に関して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識・技能を有すると認められる警備業法における指定講習を受講したもの	人	1, 2級交通誘導警備員（交通誘導警備員B）	交通誘導警備員に関して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識・技能を有する警備員等	人	1項 第2号の警備業務（警備業法 第2条第1項 第2号の警備業務）を現に受けているもので、交通誘導に関する警備業務に從事した場合（実務経験年数）が1年以上であるもの	（1.7.1) [1.8.2]
4. 開通工事等	① 連続工事 ② 電気設備工事 ③ 衛生設備工事 ④ 空調設備工事 ⑤ 埋設工事 ⑥ 外構工事 ⑦ 解体工事	5. 概定期	完成期限の（　）日前	（　）年　月　日	6. 部分使用（工事請負契約書第34条第1項）	16 統括安全衛生管理義務者の指名	17 発生材の処理	7. 設備工事仕様	1. 特記仕様	1. 項目は、番号に印の付いたものを適用する。 2. 特記事項は、印の付いたものを適用する。印の付かない場合は、印の付いたものを適用する。印と印の付いた場合は、共に適用する。 3. 特記事項に記載の（　）内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 4. 特記事項に記載の〔　〕内表示番号は、「公共建築改修工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 5. 特記事項に記載の＜　＞内表示番号は、「建築物解体工事共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 6. 適用基準等 図面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官公署常勤部監修の以下による。 ※ 公共建築工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版 ※ 公共建築工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版 ※ 公共建築改修工事標準仕様書（機械設備工事編）令和4年版 ※ 公共建築改修工事標準仕様書（電気設備工事編）令和4年版 ※ 公共建築改修工事標準規格（機械設備工事編）令和4年版 ※ 公共建築改修工事標準規格（電気設備工事編）令和4年版 ※ 建築物解体工事共通仕様書 令和4年版 給水外線工事については、高知市水道局発行の「給水装置工事施工要領」による。 3. 「退休2日制モデル工事」の実施について ・ 受注者指定型 ① 受注者希望型 本工事は、工事着手日から工事完成日までの間の土曜日及び日曜日を現場の休工日の基本とする 「退休2日制モデル工事」の対象工事である。実施にあたっては高知市「退休2日制モデル工事」実施要領（工事規程）による。 (https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/123/syukyuhutsuka.html) ・ 対象外（理由）	18 産業廃棄物の運搬、処分等については、(1.3.9)により適切に処分するものとし、事前に監督職員に処理計画書を提出する。産業廃棄物の運搬は、発生材を他業者に委託する場合は、本工事についての書面による委託契約を行い、処理計画書にその写しを添付する。 自己処分場で処分する場合は、その処分場が関係法令の規定に適合する旨の資料を提出し、監督職員の現地会を受けた上で承認を得る。（機種・保管についても同様とする。） 産業廃棄物の収集・運搬に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（以下、「廃棄物処理法」という。）施行令に基づく車両への表示及び書類の提出を行うこと。 また、産業廃棄物を輸出する車両について、処分場ごとに1台のみ写真撮影し、随時監督職員に報告する。 廃棄物処理法を遵守し、工期内に最終処分（埋立処分、海洋投入処分又は再貯）を終了しなければならない。 また、産業廃棄物管理規（以下、「マニフェスト」という。）により適正に処理されていることを確認するとともに、監督職員にそのE2紙の写しを提出しなければならない。 ただし、廃棄物処理法を遵守した上で、工期内に産業廃棄物の最終処分を終了することが困難な場合で、監督職員が認める場合においては、工期内に中間処理業者に搬入されたことを確認するとともに、監督職員にそのB2紙の写しを提出しなければならない。 この場合、マニフェストにより適正に中間処理業者に搬入されていることを確認するとともに、監督職員にそのB2紙の写しを提出しなければならない。また、最終処分終了後速やかにE2紙の写しを提出しなければならない。 なお、廃棄物処理法に定める電子情報処理組織を使用する場合は別途協議する。 ・ 引き渡しを要するもの () ・ 現場再利用を図るもの () ※ 再生資源化を図るもの (※ コンクリート及び鉄から成る建設資材 ※ 木材 ※ アスファルトコンクリート ※ 金属)	19 有価物処理を図るもの 有価物処理の完了を証明できる書類を提出する。 ・ 特別管理産業廃棄物の処理方法 (※ P.C.B.使用機器 P.C.B.使用機器は関係法令により適切に処理し、物販管理者に引き渡す。 ・ フロン類の回収・破壊を図るもの (※ 業務用エアコンディショナー フロン排出抑制法に従い適切に処理し、工程管理票及びフロン類の回収・破壊の完了を証明できる書類を提出する。 ・ 特殊な建設副産物 (※ 六つ化成黄ガス イオン式感知器 開閉器に含まれる六つ化成黄ガスは製造業者に回収を委託し、回収後の機器は適正に処分する。 イオン式感知器は、製造業者に引き渡す。それぞの処理が証明できる書類を提出する。 くせこうボードの処理方法) ひ素・カドミウム含有せこくうボードの処理 ※ 管理型最終処分場で埋立処分 石綿含有及びカドミウム含有せこくうボード以外のせこくうボードの処理 ※ 管理型最終処分場で埋立処分 ・ 再資源化施設で再資源化 (1.3.9) [5.1.1]	20 不正軽油の使用の禁止 不正軽油とは、地方税法第14条の32の規定による県知事の承認を受けないで製造又は譲渡された次のものをいう。 1) 軽油と軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）を混和したもの 2) 軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）と軽油以外の炭化水素油（重油、灯油等）を混和して製造されたもの 3) 自動車の燃料として譲渡・消費される燃料炭化水素油（重油、水素等） b) 受注者は、県が使用燃料の採油調査を行う場合には、その調査に協力しなければならない。	21 消防計画	22 消防署手にあたり、火災等の災害の予防や、使用部分と工事中の部分の安全を確保するため、別契約の関連工事業者と協議の上、「工事中の消防計画書」を作成し、当該施設の防火管理者の承諾を得て届出を行う。						
① 宮公署その他への手続き	工事の着手・施工・完成に当たり、関係官署その他の関係機関への必要な届出手続き等を遅滞なく行う。 手続き等の費用は受注者の負担とするが、以下の費用については発注者が負担する。(1.1.3) [1.1.3]	23 既存の施設（用水） 既存の施設（電力） 既存の施設（排水）	24 利用できる（※ 有償　・無償） 25 利用できる（※ 有償　・無償） 26 利用できない	27 取扱い説明	28 不当要求等への対応	29 暴力団又は暴力団関係者からの不当要求又は工事妨害（以下、「不当介入」という。）の排除については次による。 a) 受注者は、暴力団又は暴力団関係者から工事の施工に關して不当介入を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届け出なければならない。 b) 受注者は、不当介入による被害を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届け出なければならない。 c) 受注者は、監督職員及び所轄警察署と協力して、不当介入の排除措置を講じなければならない。 d) 受注者が、不当介入の報告を怠った場合は、「高知市競争入札指名停止査定要領」に基づき、指名停止措置を行うものとする。	30 消防計画	31 工事用水・電力	32 不正軽油の使用の禁止	33 砂利地業	34 保護砂	35 埋裏し	36 建設発生土の処理	37 電気主任技術者への報告	38 工事特性等						
② 工事実績情報サービス (CORINS)への登録 (請負金額500万円以上) (受注、変更、完成時)	登録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建設実績情報のコリンズ・テクリス登録等に関する規約」による。(1.1.4) [1.1.4]	37 特別な材料の工法	38 公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承諾を受けて当該材料製造の指定する工法による。	39 仮囲い	40 填砂	41 地盤改良	42 建設発生土の処理	43 仮囲い	44 地盤改良	45 填砂	46 建設発生土の処理	47 電気主任技術者への報告	48 工事特性等								
③ 書類の書式等	工事の着手に当たり、監督職員立会の下で設計図書等の照査及び施工監理資料作成の打合せを行い記録を整備する。 施工監理資料の内容及び水準は、監督職員が示す「施工監理資料一覧」による。(1.1.5) [1.1.5]	39 分析調査	40 分析調査	41 分析調査	42 分析調査	43 分析調査	44 分析調査	45 分析調査	46 分析調査	47 分析調査	48 分析調査	49 分析調査	50 分析調査	51 分析調査							
④ 総合工程表	原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者連名による総合工程表を監督職員に提出する。(1.2.1) [1.2.1]	52 分析調査	53 分析調査	54 分析調査	55 分析調査	56 分析調査	57 分析調査	58 分析調査	59 分析調査	60 分析調査	61 分析調査	62 分析調査	63 分析調査	64 分析調査							
⑤ 総合図	工事の施工に先立ち、別契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員の承諾を受ける。(1.2.3) [1.2.3]	65 分析調査	66 分析調査	67 分析調査	68 分析調査	69 分析調査	70 分析調査	71 分析調査	72 分析調査	73 分析調査	74 分析調査	75 分析調査	76 分析調査	77 分析調査							
⑥ 施工図等の取扱い	施工図等の内、監督職員の承諾を要するものについては、施工監理資料作成の打合せ時に協議する。 施工図等の著作権に係る当該図物に係る使用者は、発注者に移譲するものとする。(1.2.3) [1.2.3]	78 分析調査	79 分析調査	80 分析調査	81 分析調査	82 分析調査	83 分析調査	84 分析調査	85 分析調査	86 分析調査	87 分析調査	88 分析調査	89 分析調査	90 分析調査							
⑦ 工事日誌	週ごとに工事の全般的な経過及び次回の工事予定を記載した日誌を監督職員に提出する。(1.2.4) [1.2.4]	91 分析調査	92 分析調査	93 分析調査	94 分析調査	95 分析調査	96 分析調査	97 分析調査	98 分析調査	99 分析調査	100 分析調査	101 分析調査	102 分析調査	103 分析調査							
⑧ 工事写真	工事写真はJ版程度とし、工事の内容、日付等必要事項を記入し1部提出する。(A4版台紙) (1.2.4) [1.2.4]	104 分析調査	105 分析調査	106 分析調査	107 分析調査	108 分析調査	109 分析調査	110 分析調査	111 分析調査	112 分析調査	113 分析調査	114 分析調査	115 分析調査	116 分析調査							
⑨ 下請負者の報告	各下請負者については、下請負契約前に「下請施工予定報告書」にて監督職員に報告する。	117 分析調査	118 分析調査	119 分析調査	120 分析調査	121 分析調査	122 分析調査	123 分析調査	124 分析調査	125 分析調査	126 分析調査	127 分析調査	128 分析調査	129 分析調査							
⑩ 電気保安技術者	適用する (1.3.2) [1.3.2]	130 分析調査	131 分析調査	132 分析調査	133 分析調査	134 分析調査	135 分析調査	136 分析調査	137 分析調査	138 分析調査	139 分析調査	140 分析調査	141 分析調査	142 分析調査							
⑪ 施工条件	施工日及び施工時間 ※ (1.3.3), [1.3.3] (1)による。 工事用車両の駐車場所及び資機材の置場所 ※ 仮囲い 図示	143 分析調査	144 分析調査	145 分析調査	146 分析調査	147 分析調査	148 分析調査	149 分析調査	150 分析調査	151 分析調査	152 分析調査	153 分析調査	154 分析調査	155 分析調査							
⑫ 工事の保険	その他の施工条件 ○ 滞留の場合は、専任の調査員を配置する。その他の場合でも、工事関係車両（乗用車も含む）が敷地内を通行する際には必ず係留するものをつけ、公道まで停めず。 ○ 係留する際はなるべく車両の搬動を作らう作業については施設管理者と協議のうえ、作業時間を指定する場合がある。 ○ 係留日、始日は作業不可日とする。 ○ 工事着手は9月1日以後とする。 工事請負契約後、速やかに工事目的物、工事材料等に生じる損害、第三者に及ぼした損害を補償する保険を締結する。 保険期間は、工事着手のときから完成期限より24日後以降までの期間とする。	156 分析調査	157 分析調査	158 分析調査	159 分析調査	160 分析調査	161 分析調査	162 分析調査	163 分析調査	164 分析調査	165 分析調査	166 分析調査	167 分析調査	168 分析調査							
⑬ 約款保証	※ 金銭的保証方式 ・ 有 ○ 無	169 分析調査	170 分析調査	171 分析調査	172 分析調査	173 分析調査	174 分析調査	175 分析調査	176 分析調査	177 分析調査	178 分析調査	179 分析調査	180 分析調査	181 分析調査							
⑭ 前払金支払割合区分補正		182 分析調査	183 分析調査	184 分析調査	185 分析調査	186 分析調査	187 分析調査	188 分析調査	189 分析調査	190 分析調査	191 分析調査	192 分析調査	193 分析調査	194 分析調査							
⑮ 交通誘導警備員	交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法（昭和47年法律第117号）第4条による認定を受けた警備業者等の他職種の者を從事させないこととする。ただし、一時的な作業等で、安全確保に對応できることと監督職員が認めたものについては、この限りでないものとする。	195 分析調査	196 分析調査	197 分析調査	198 分析調査	199 分析調査	200 分析調査	201 分析調査	202 分析調査	203 分析調査	204 分析調査	205 分析調査	206 分析調査	207 分析調査							

高知市 都市建設部 公共建築課

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																							
機械設備特記事項		11 メカニカル継手	※ メカニカル継手は伸縮可とう・離脱防止性能を有し、内外面エボキシ粉体塗装を施したものとする。 ※ 改修工事等で鋼管類（ライニング鋼管）を切断して、やむを得ずメカニカル継手を使用する場合には、切断部の防錆処理として、J AWWA K 135規格適合品にて処置する。	12 吊り及び支持	※ 原則として下図に従う。詳細は国土交通省仕様による。 横走り管の吊り及び震れ止め最大支持間隔 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th colspan="10">呼び径</th> </tr> <tr> <th>15</th><th>20</th><th>25</th><th>32</th><th>40</th><th>50</th><th>65</th><th>80</th><th>100</th><th>125</th><th>150</th><th>200</th><th>250</th><th>300</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>吊り金物による吊り</td> <td colspan="10">鋼管等 2.0m</td> <td colspan="4">3.0m</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td colspan="5">1.0m</td> <td colspan="5">2.0m</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="5">8.0m</td> <td colspan="4">12m</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="5">8.0m</td> <td colspan="4">12m</td> </tr> </tbody> </table> 立て管の固定及び震れ止め箇所 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">固定</th> <th colspan="2">鋼管等</th> <th colspan="2">最下階の床又は最高階の床</th> </tr> <tr> <th>鋼管等</th> <th>各階1箇所</th> <th>鋼管等</th> <th>各階1箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td colspan="2">ビニル管等</td> <td colspan="2">各階1箇所</td> </tr> </tbody> </table>	分類	呼び径										15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	吊り金物による吊り	鋼管等 2.0m										3.0m				ビニル管等	1.0m					2.0m									形鋼振れ止め支持	—					8.0m					12m				ビニル管等	—					8.0m					12m				固定	鋼管等		最下階の床又は最高階の床		鋼管等	各階1箇所	鋼管等	各階1箇所	形鋼振れ止め支持	ビニル管等		各階1箇所		24 拝	b) 維持管理を管理者に引継ぐ場合は、直前に水質検査（BOD・SS・PH・大腸菌・塩素イオン）を行い、その結果を一括で管理者に提出する。 ※ 見えやすい場合には、型式・施工者名・設置年月・処理能力・放流水質を記入した板を設置する。	25 防振施工	※ コンクリート製の杭（工場製品）には、仕上がり5cm程度で砂利又は砂等で基礎を施す。 ※ プラスチック製の杭には、コンクリート製または既製の複合材料による基礎を施す。 ※ 締合せ面に設置されない杭の蓋は、周囲をモルタル等（厚さ10cm程度）により保護する。	26 転倒・落下・傾き防止	※ 機器の転倒が建物に影響を及ぼすおそれのあるものは、適切な防護措置を施す。 ※ 電動機等により運動を生じる機器及び配管の固定部にはダブルナットやストップボルト等により締み、脱落防止措置を施す。ナットは、アイマークにより締付けが確認できるようにし、ナットに対するボルトの余長は3山以上を標準とする。 【公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）準拠】	27 特定天井への対応	※ 床又は壁に設置の機器で重量が大きく重心位置が比較的高い機器については転倒防止措置を施す。 ※ 天吊り機器には禁止用形鋼架台や斜材を用いる等して落下・傾き防止措置を適切に施す。 ※ 天吊り機器と吊り金物との接続箇所毎に防振装置を設ける。	28 耐震施工	【下水道排水設備指針と解説準拠】 ※ 機器の設置が建物に影響を及ぼすおそれのあるものは、適切な防護措置を施す。 ※ 電動機等により運動を生じる機器及び配管の固定部にはダブルナットやストップボルト等により締み、脱落防止措置を施す。ナットは、アイマークにより締付けが確認できるようにし、ナットに対するボルトの余長は3山以上を標準とする。 【公共建築設備工事標準図（機械設備工事編）準拠】	29 別途工事	天吊り機器等の施工方法は、「建築物における天井脱落対策に係る技術基準」に適合すること。	30 支給品	設備機器の固定等は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」及び建設大臣官房官公廳部監修の「施設監修の総合耐震計画基準及び同解説（平成8年版）」による。局部震度法による設計用標準震度は、構造体の耐震安全性の分類、設備機器の重要度及び設置階により選定する。100kg以上の機器に適用し、それ以下の機器については監督職員と協議する。 給湯設備の転倒防止措置は、建築基準法施行令第129条の2の7第2号及び同令に基づく告示（平成24年国土交通省告示第144号）の定めによる。 なお、施工に先立ち、耐震強度計算書を監督職員に提出し、承認を受けるものとする。						
分類	呼び径																																																																																																																											
	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300																																																																																																														
吊り金物による吊り	鋼管等 2.0m										3.0m																																																																																																																	
ビニル管等	1.0m					2.0m																																																																																																																						
形鋼振れ止め支持	—					8.0m					12m																																																																																																																	
ビニル管等	—					8.0m					12m																																																																																																																	
固定	鋼管等		最下階の床又は最高階の床																																																																																																																									
	鋼管等	各階1箇所	鋼管等	各階1箇所																																																																																																																								
形鋼振れ止め支持	ビニル管等		各階1箇所																																																																																																																									
① 機械その他	<p>※ 配管表記 (1.1.7.4準拠) [1.1.8.5準拠]</p> <p>a) 機械室・ピット・P S 内・天井点検口・配管分岐場所には必ず表記する。 b) 表記内容は、液体・サイズ・系統名とし、場所・向き・文字サイズ等事前協議決定後に施工する。 c) 配管の識別は、原則としてJ I S Z 9102によるものとし、識別方法・色合いは監督職員の指示による。</p> <p>※ 機器表記（該当する主要機器は事前に確認する。）</p> <p>a) 設計記号の付いている主要機器には、カッティングシート等にて表記（管理番号・室名・設置年月等）を行う。 b) パッケージエアコン等の空調機は、室内機だけでなく室外機にも表記を行う。 c) 水中に設置する各種主要機器類は銅板（製造社名・製造年月・型番・性能等）を蓋付近にも設ける。</p> <p>※ 弁には、閉鎖等を記入したアクリル札を取り付け、風で飛んだり騒音を立てないように固定するか、表示方法を協議する。 ※ 埋設弁ボックスには、内側に系統名・管サイン・設置年月を書いたアクリル札を入れる。 ※ 埋設弁ボックスの蓋は、流体の行先側に蓋の付根を向ける。 ※ 排水以外の屋外埋設管には、曲がり・分歧部・その他の設置位置の確認ができるように地中埋設標を設ける。 ※ 溝水以外の屋外埋設管の埋戻し時には、G L - 150mm程度に埋設表示用アルミテープを埋設する。</p>	13 埋設管の保護	※ 國土交通省仕様どおりに吊り配管等を施工しても、他の資材配管等と干渉する場合は遮止めを適宜設ける。 ※ 屋外等で吊り金物による施工ができない場合には、プラケット等にて配管及び配管付属品を支持し、配管荷重による管の移動を抑える。	14 埋設深さ	※ 約40cmまで埋設する場合、管の周囲100mm程度に保護砂を入れる。 ※ 約40cm以降の埋設管は管の周囲100mm程度に保護砂を入れる。	15 防食措置	※ 埋設管は管が移動しないよう中心程度まで埋戻す。ただし、土圧及び上載荷重が管よりの耐荷量を超える場合は、適切な砂で卷立て、外圧に対して管を保護する。	16 保溫工事	※ 埋設管の保護は、原則として車両道路では管の上端より600mm以上、それ以外では300mm以上とする。ただし、寒冷地では凍結深度以上とする。	17 保溫	※ 鋼管・鉛管のコンクリート内配管にはプラスチックテープ1／2重ね1回巻きとする。	18 はつり工事	※ 地中に埋設する鉄管・鋳鉄異形管・メカニカル継手・特殊継手類にはポリエチレンリース等の被覆を施すこと。 【給水装置工事施工要領】	20 別途工事	・スリーブ及び着入れの補強筋 ・ガラリ ○床点検口 ・天井点検口 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・レンジフードファン ・化粧鏡（多機能便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・スリーブアリーナルバネル ・天井アリーナルバネル ・床及び壁開口に対する下地補強 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・設計図面に本工事で施工の旨が個別に記載されたものについてはこれによらない。	21 パッケージ形空気調和機	・スリーブ及び着入れの補強筋 ・ガラリ ○床点検口 ・天井点検口 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・スリーブアリーナルバネル ・天井アリーナルバネル ・床及び壁開口に対する下地補強 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・設計図面に本工事で施工の旨が個別に記載されたものについてはこれによらない。	22 ダクト及びダクト付属品	・スリーブ及び着入れの補強筋 ・ガラリ ○床点検口 ・天井点検口 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・スリーブアリーナルバネル ・天井アリーナルバネル ・床及び壁開口に対する下地補強 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・設計図面に本工事で施工の旨が個別に記載されたものについてはこれによらない。	23 合併処理浄化槽	・スリーブ及び着入れの補強筋 ・ガラリ ○床点検口 ・天井点検口 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・スリーブアリーナルバネル ・天井アリーナルバネル ・床及び壁開口に対する下地補強 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・設計図面に本工事で施工の旨が個別に記載されたものについてはこれによらない。	24 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	25 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	26 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	27 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	28 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	29 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	30 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日																																																																																									
② 総合調整	本工事に該当する工事項目に応じて、下記項目の総合調整を行い、計画書及び報告書を監督職員に提出する。	12 吊り及び支持	※ 原則として下図に従う。詳細は国土交通省仕様による。 横走り管の吊り及び震れ止め最大支持間隔 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">分類</th> <th colspan="10">呼び径</th> </tr> <tr> <th>15</th><th>20</th><th>25</th><th>32</th><th>40</th><th>50</th><th>65</th><th>80</th><th>100</th><th>125</th><th>150</th><th>200</th><th>250</th><th>300</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>吊り金物による吊り</td> <td colspan="10">鋼管等 2.0m</td> <td colspan="4">3.0m</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td colspan="5">1.0m</td> <td colspan="5">2.0m</td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="5">8.0m</td> <td colspan="4">12m</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td colspan="5">—</td> <td colspan="5">8.0m</td> <td colspan="4">12m</td> </tr> </tbody> </table> 立て管の固定及び震れ止め箇所 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">固定</th> <th colspan="2">鋼管等</th> <th colspan="2">最下階の床又は最高階の床</th> </tr> <tr> <th>鋼管等</th> <th>各階1箇所</th> <th>鋼管等</th> <th>各階1箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td colspan="2">ビニル管等</td> <td colspan="2">各階1箇所</td> </tr> </tbody> </table>	分類	呼び径										15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	吊り金物による吊り	鋼管等 2.0m										3.0m				ビニル管等	1.0m					2.0m									形鋼振れ止め支持	—					8.0m					12m				ビニル管等	—					8.0m					12m				固定	鋼管等		最下階の床又は最高階の床		鋼管等	各階1箇所	鋼管等	各階1箇所	形鋼振れ止め支持	ビニル管等		各階1箇所		20 別途工事	天吊り機器等の施工方法は、「建築物における天井脱落対策に係る技術基準」に適合すること。	21 パッケージ形空気調和機	設備機器の固定等は、国土交通省国土技術政策総合研究所・独立行政法人建築研究所監修の「建築設備耐震設計・施工指針（2014年版）」及び建設大臣官房官公廳部監修の「施設監修の総合耐震計画基準及び同解説（平成8年版）」による。局部震度法による設計用標準震度は、構造体の耐震安全性の分類、設備機器の重要度及び設置階により選定する。100kg以上の機器に適用し、それ以下の機器については監督職員と協議する。	22 ダクト及びダクト付属品	給湯設備の転倒防止措置は、建築基準法施行令第129条の2の7第2号及び同令に基づく告示（平成24年国土交通省告示第144号）の定めによる。	23 合併処理浄化槽	なお、施工に先立ち、耐震強度計算書を監督職員に提出し、承認を受けるものとする。	24 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	25 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	26 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	27 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	28 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	29 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	30 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日
分類	呼び径																																																																																																																											
	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300																																																																																																														
吊り金物による吊り	鋼管等 2.0m										3.0m																																																																																																																	
ビニル管等	1.0m					2.0m																																																																																																																						
形鋼振れ止め支持	—					8.0m					12m																																																																																																																	
ビニル管等	—					8.0m					12m																																																																																																																	
固定	鋼管等		最下階の床又は最高階の床																																																																																																																									
	鋼管等	各階1箇所	鋼管等	各階1箇所																																																																																																																								
形鋼振れ止め支持	ビニル管等		各階1箇所																																																																																																																									
③ 配管材料		11 メカニカル継手	※ メカニカル継手は伸縮可とう・離脱防止性能を有し、内外面エボキシ粉体塗装を施したものとする。	12 吊り及び支持	※ 改修工事等で鋼管類（ライニング鋼管）を切断して、やむを得ずメカニカル継手を使用する場合には、切断部の防錆処理として、J AWWA K 135規格適合品にて処置する。	24 拝	b) 維持管理を管理者に引継ぐ場合は、直前に水質検査（BOD・SS・PH・大腸菌・塩素イオン）を行い、その結果を一括で管理者に提出する。	25 防振施工	※ 見えやすい場合には、型式・施工者名・設置年月・処理能力・放流水質を記入した板を設置する。	26 転倒・落下・傾き防止	※ コンクリート製の杭（工場製品）には、仕上がり5cm程度で砂利又は砂等で基礎を施す。	27 特定天井への対応	※ プラスチック製の杭には、コンクリート製または既製の複合材料による基礎を施す。	28 耐震施工	※ 鋼管の設置が建物に影響を及ぼすおそれのあるものは、適切な防護措置を施す。	29 別途工事	【下水道排水設備指針と解説準拠】	30 支給品	※ 電動機等により運動を生じる機器及び配管の固定部にはダブルナットやストップボルト等により締み、脱落防止措置を施す。ナットは、アイマークにより締付けが確認できるようにし、ナットに対するボルトの余長は3山以上を標準とする。	31 施設の分類	施設の分類 ・特定の施設 ・一般的な施設 地域係数 1.0 設計用船底地盤力 設計水平地盤力の1/2 重要機器 防災機器 火を使用する機器 タンク類 消火設備機器																																																																																																							
④ 配管付属品		13 埋設管の保護	※ 国土交通省仕様どおりに吊り配管等を施工しても、他の資材配管等と干渉する場合は遮止めを適宜設ける。	14 埋設深さ	※ 屋外等で吊り金物による施工ができない場合には、プラケット等にて配管及び配管付属品を支持し、配管荷重による管の移動を抑える。	15 防食措置	※ 約40cmまで埋設する場合、管の周囲100mm程度に保護砂を入れる。	16 保溫工事	※ 約40cm以降の埋設管は管の周囲100mm程度に保護砂を入れる。	17 保溫	※ 鋼管・鉛管のコンクリート内配管にはプラスチックテープ1／2重ね1回巻きとする。	18 はつり工事	※ 地中に埋設する鉄管・鋳鉄異形管・メカニカル継手・特殊継手類にはポリエチレンリース等の被覆を施すこと。 【給水装置工事施工要領】	20 別途工事	設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。	21 パッケージ形空気調和機	設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。	22 ダクト及びダクト付属品	設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。	23 合併処理浄化槽	設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。	24 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	25 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	26 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	27 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	28 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	29 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日	30 打合せ事項	官庁等名 打合せ日時 令和 年 月 日																																																																																									
⑤ スリーブ		17 保溫	※ 耐火二層管（内管VP）	18 はつり工事	※ 耐火二層管（内管VP）	20 別途工事	・スリーブ及び着入れの補強筋 ・ガラリ ○床点検口 ・天井点検口 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・スリーブアリーナルバネル ・天井アリーナルバネル ・床及び壁開口に対する下地補強 ・洗面化粧台水栓及び排水金具 ・キッチン台水栓及び排水金具 ・シャワーユニット水栓及び排水金具 ・シャワーユニット換気扇 ・化粧鏡（一般便所） ・給湯器具及び空調機器のリモコン配線用配管 ・コンクリート基礎（・室外機・受水槽・ポンベ庫） ・設計図面に本工事で施工の旨が個別に記載されたものについてはこれによらない。	21 パッケージ形空気調和機	新規用 ・耐火二層管（内管VP）	22 ダクト及びダクト付属品	新規用 ・耐火二層管（内管VP）	23 合併処理浄化槽	新規用 ・耐																																																																																																															



工事場所: 一宮ふれあいセンター
高知市一宮中町一丁目5番20号

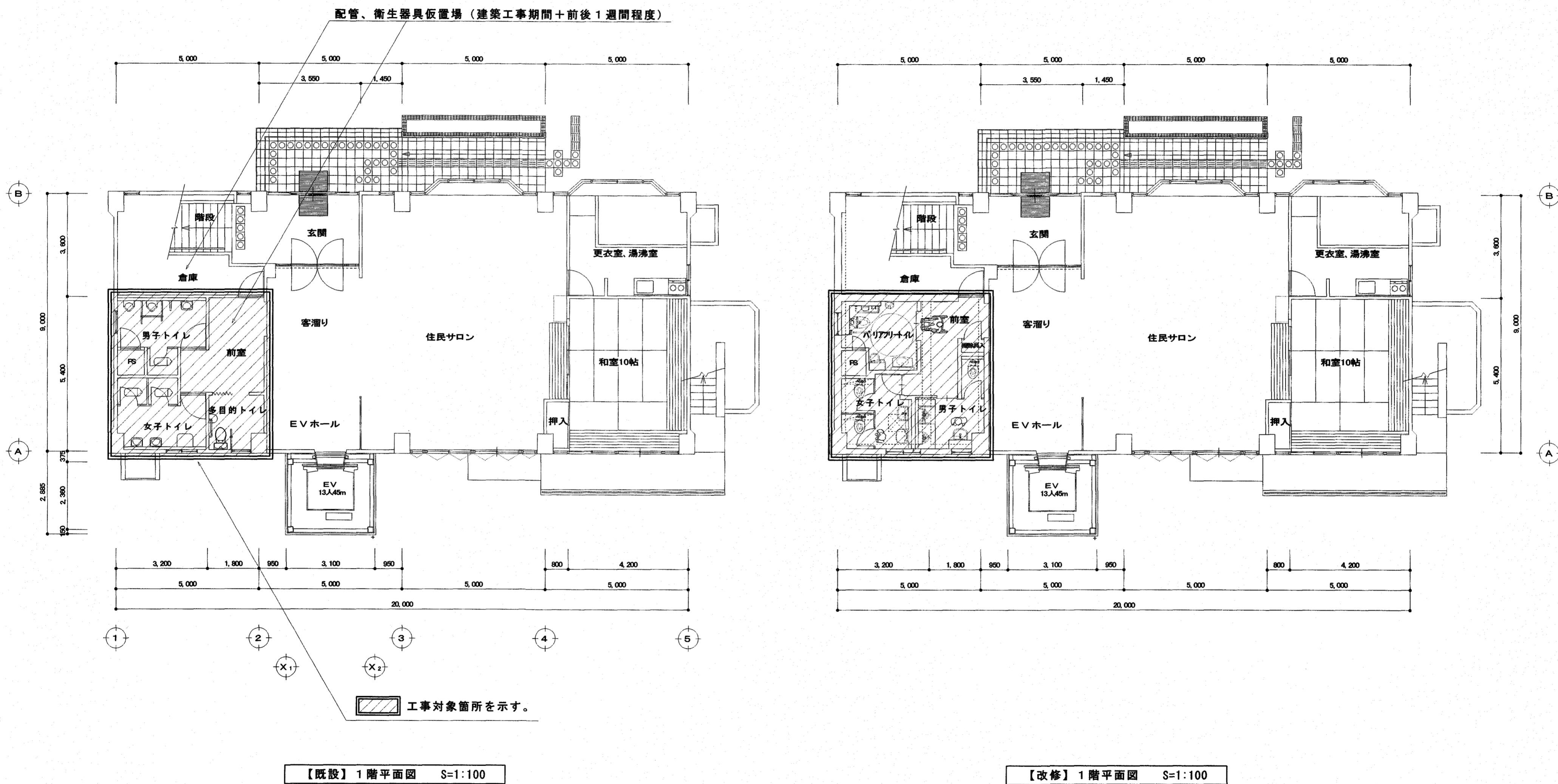


工事概要

- 1階トイレバリアフリー化に伴う、内部改修工事（トイレ乾式化含む）
- ①衛生設備器具一式取替、器具取替に伴う配管改修工事（ピット内）
- ②換気設備器具取替（ダクト取替含む）
- ③P.S内配管の改修工事（1階）

※工事作業ヤードについて、別途建築工事、別途電気設備工事と共有して使用すること。

特記	有限会社 常石設備設計室 二級建築士事務所(高知県知事登録2077号) 二級建築士登録 第3599号(高知県) 管理建築士(常石 忠) 〒781-5108 高知市潮見台一丁目2407番地 Tel: 088-880-3566 E-mail t004@kcb-net.ne.jp Fax: 088-880-3566	設計	工事名称 一宮ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事	設計年月 R06. 09	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	図面No.
			図面名称 配置図・附近見取図・工事概要	縮尺 1/200		水月	戸田	今村	松本	M-03



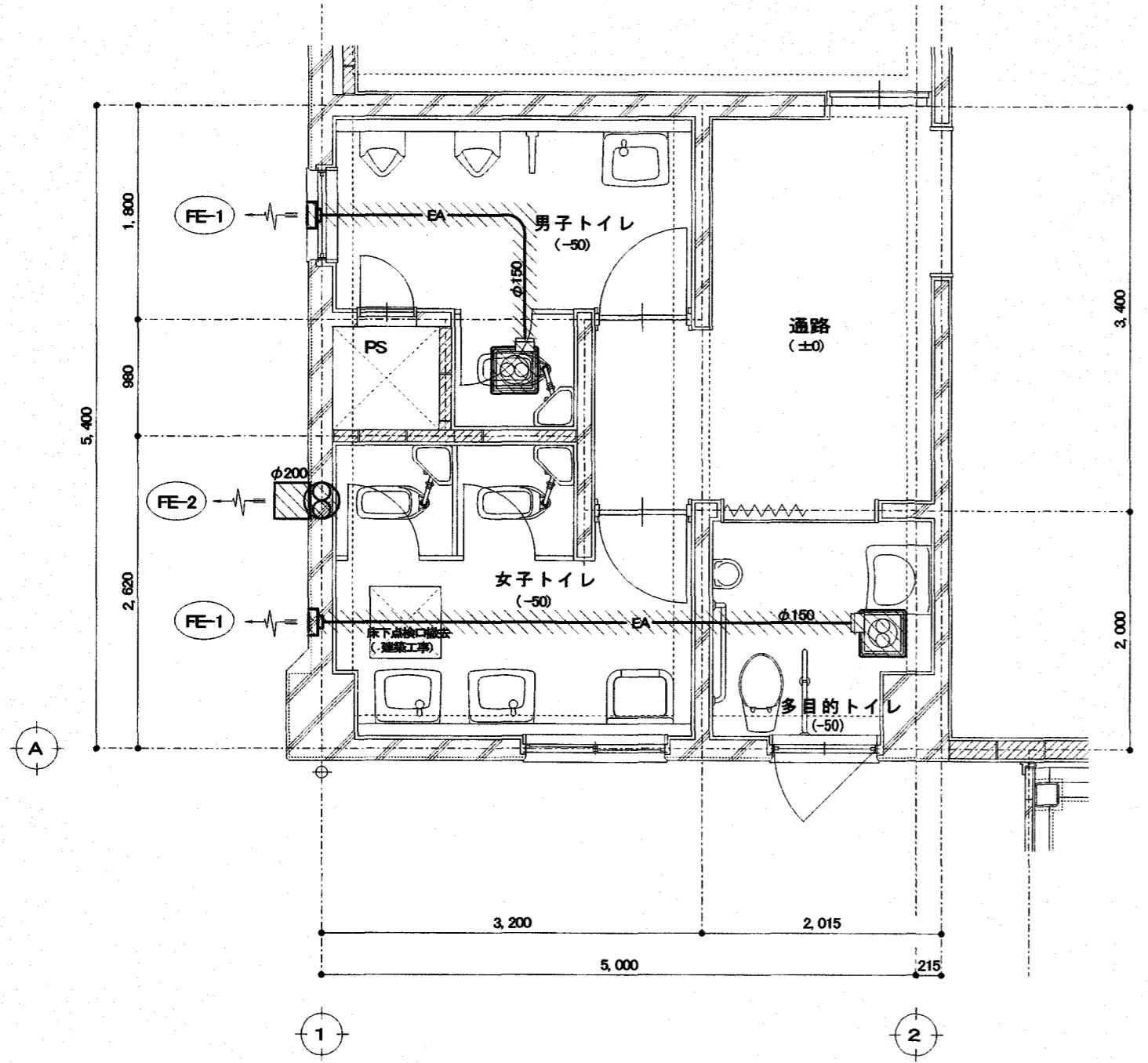
出図 A2 100% → A3 71%縮小

特記	有限会社 常石設備設計室 二級建築士事務所(高知県知事登録2077号) 二級建築士登録 第3599号(高知県) 管理建築士(常石 忠) 〒781-5108 高知市瀬戸内一丁目2407番地 Tel : 088-880-3566 E-mail : 004@kcb-net.ne.jp Fax: 088-880-3566	設計	工事名称	設計年月	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	面面No.
			一宮ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事	R06.09		水戸	戸田	中村	松本	
	図面名称		既設・改修 1階平面図	縮尺	1/100					M-04

【既設】換気設備 機器表					
記号	名 称	機 器 仕 様	電 源	数 量	備 考
FE-1	天井埋込換気扇	φ150 低騒音形 附属品: 天吊金具、ベンドキャップ(φ150)	1φ-100V	2	撤去・処分
FE-2	標準換気扇	φ200 電気式シャッター付 附属品: 取付木枠、SUS製ウェザーカバー(φ200)	1φ-100V	1	撤去・処分

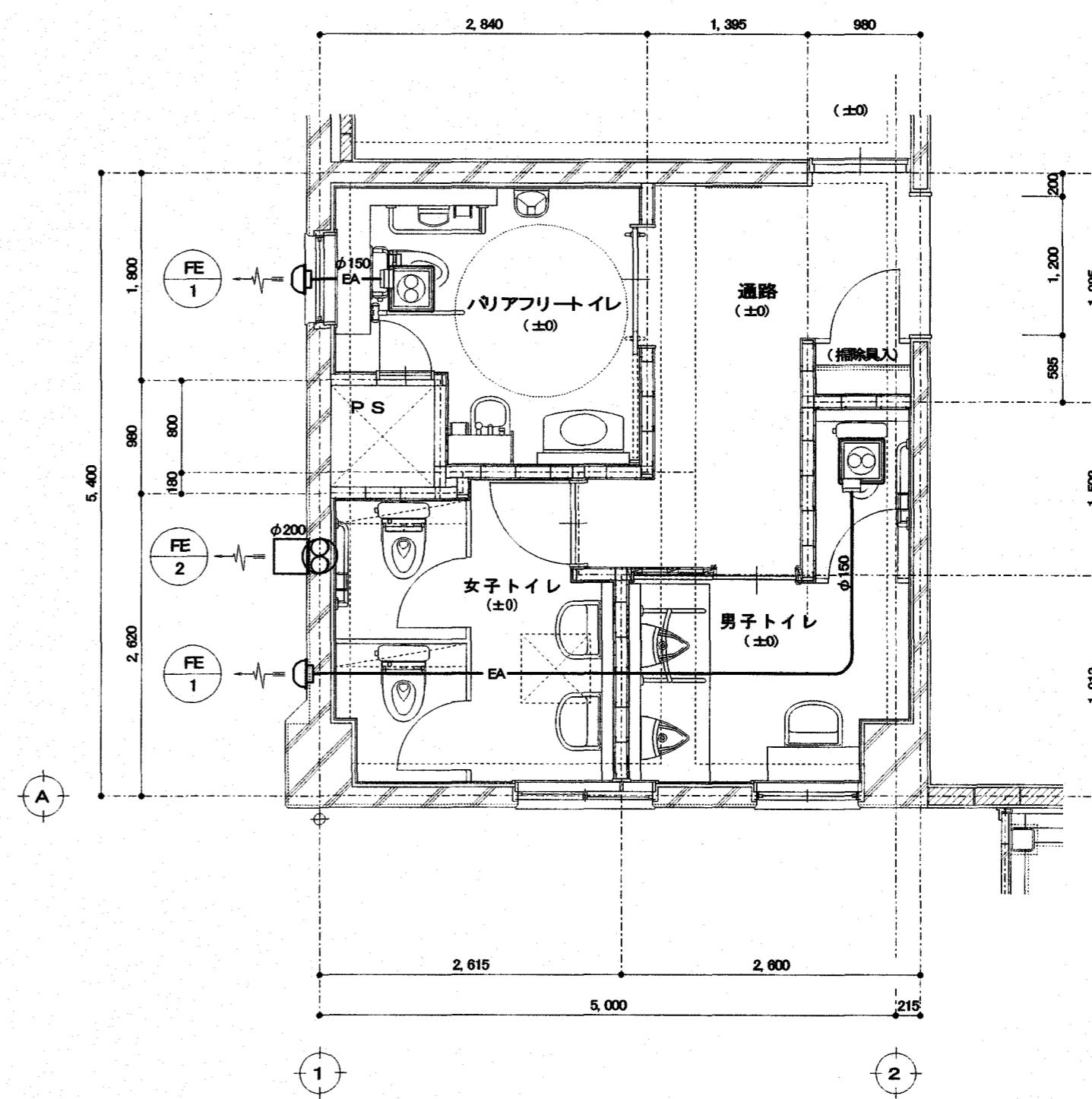
【改修】換気設備 機器表					
記号	名 称	機 器 仕 様	電 源	数 量	備 考
FE-1	天井埋込換気扇	低騒音形(プラスチックボディ) φ150×200m³/h × 20Pa × 29.5W 附属品: 天吊脱着枠、深形フードφ150 (SUS304・ガラリ・水切板付) 防鳥網、シーリング共	1φ-100V	2	
FE-2	標準換気扇	格子タイプ 電気式シャッター付 φ200×200m³/h × 5Pa × 13.5W 附属品: 不燃枠(φ200用) φ200用給排気形ウェザーカバー(SUS304)、防鳥網付、シーリング共	1φ-100V	1	

特記事項
 機器風量、静圧は記入値以上とする。
 排気ダクトは、スパイラルダクトを使用する。
 機器接続部はグラスフレキダクト(不燃材料認定品)を取付する。
 天井埋込換気扇、壁付換気扇のON/OFFスイッチは電気設備工事とし、機器への電源送りは電気工事とする。
 施工にあたっては、施工図によりダクトの圧力損失計算を行い、取付機器のチェックを行う事。
 天井埋込換気扇取付に伴う、天井開口補強については、本工事とする。



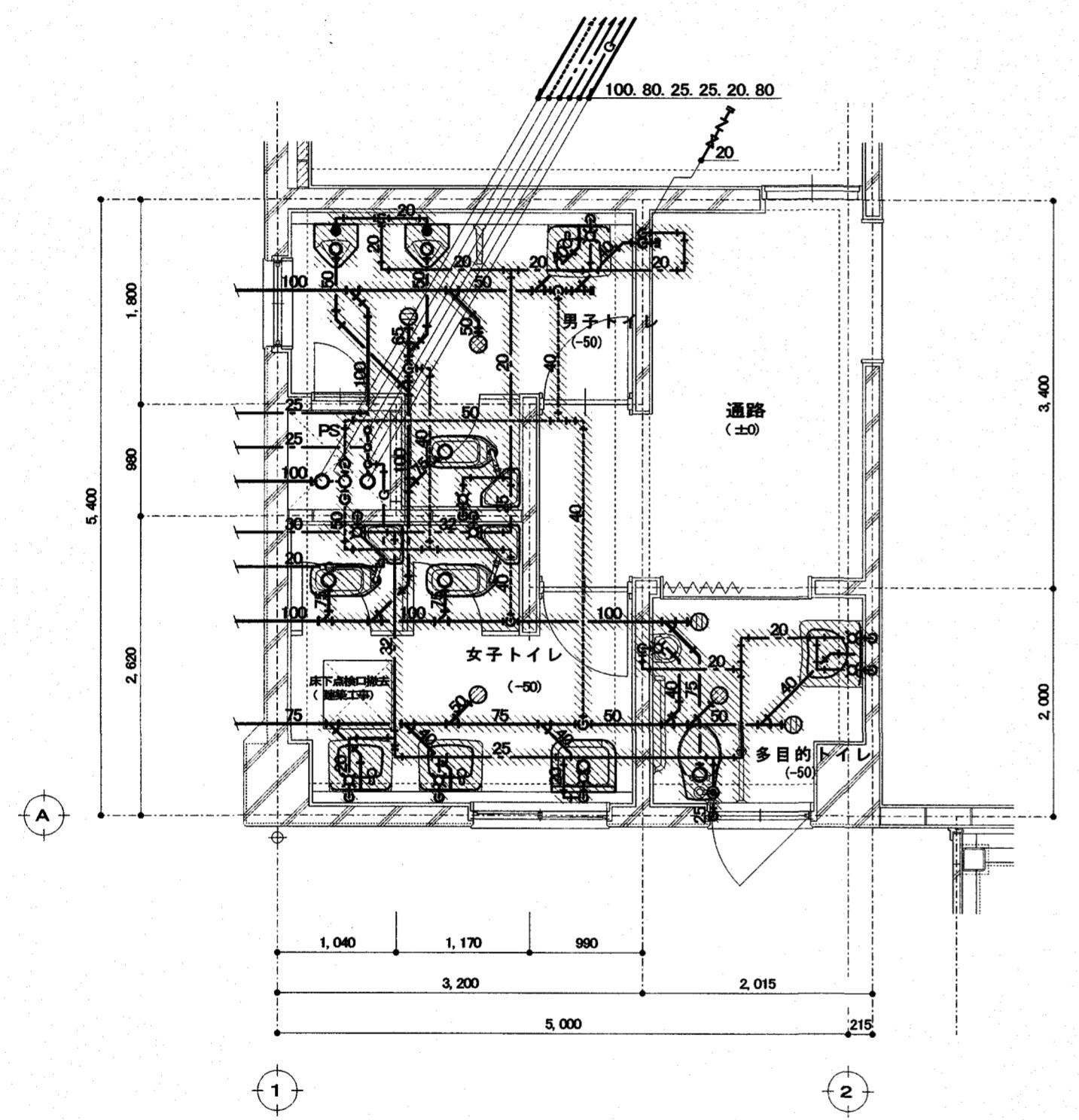
【既存】1階平面詳細図 S=1:50

凡例 (特記事項)	
	機器及び配管を本工事にて撤去・処分する



【改修】1階平面詳細図 S=1:50

特記	有限会社 常石設備設計室 二級建築士事務所(高知県知事登録2077号) 二級建築士登録 第359号(高知県) 管理建築士(常石 忠) 〒781-5108 高知市朝見台一丁目2407番地 Tel: 088-880-3566 E-mail t004@kcb-net.ne.jp Fax: 088-880-3560	設計	工事名称 一宮ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事	設計年月 R06.09	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	図面No. M-05
				図面名称 既存・改修 換気設備 1階トイレスペース平面詳細図		縮尺 1/50	水栓	戸田	土木	



【既存】1階トイレ平面詳細図S=1:50

既設配管貫通穴埋め補修(床)	
貫通径 × 厚み	給水 排水・通気
φ50 × 150L	13
φ75 × 150L	
φ100 × 150L	16
φ125 × 150L	5
φ150 × 150L	

和便器撤去跡×2箇所
補修は建築工事

凡 例	
	機器及び配管を本工事にて撤去・処分する

※PS通り壁解体前に形鋼振止支持を撤去のこと。

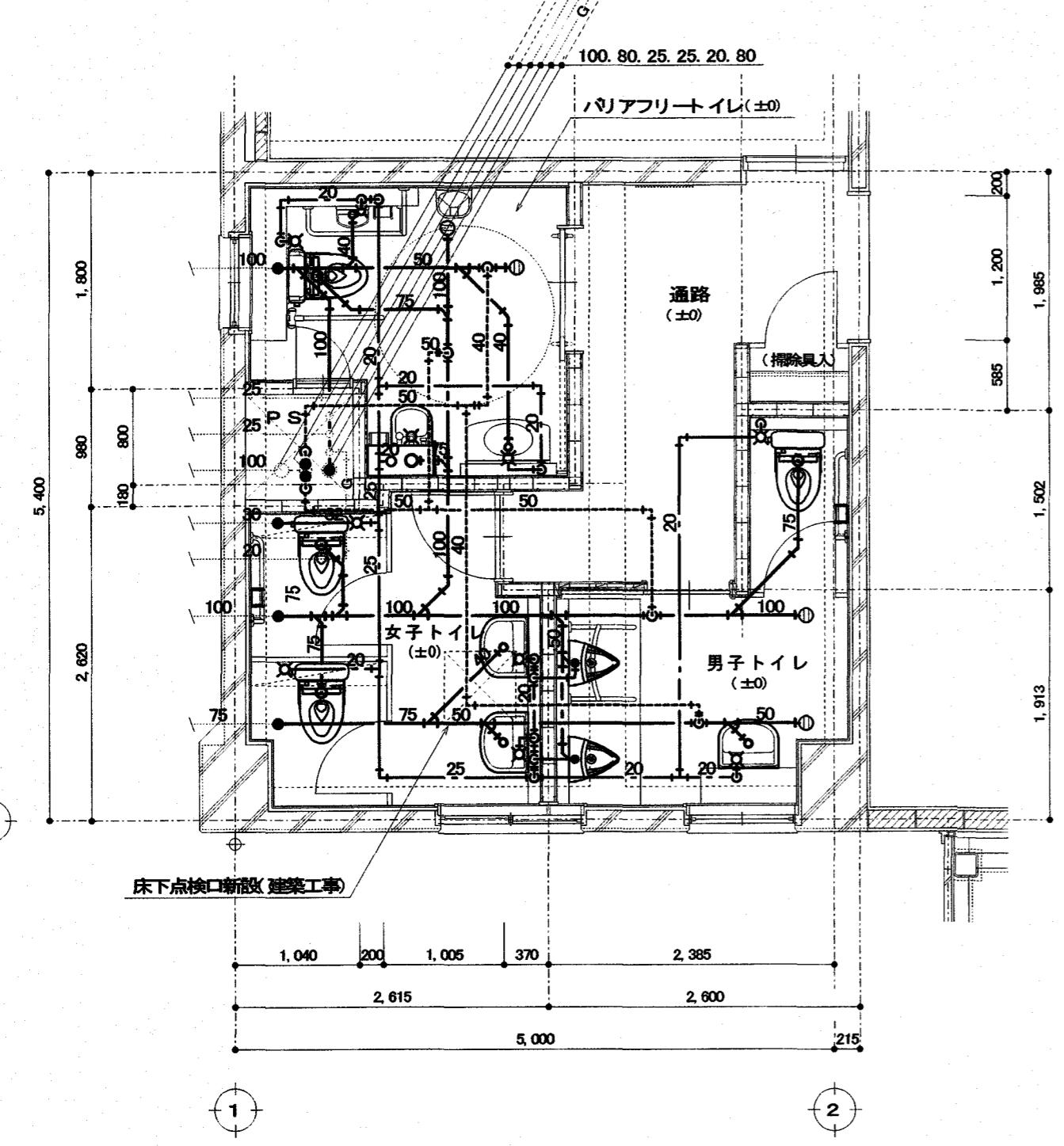
【既存】男子トイレ 卫生器具表				
名 称	品 番	数 量	備 考	
和風便器	C375VF, S670B	1	撤 去	
小便器	U307	2	撤 去	
洗面器(壁排水)	L221D	1	撤 去	
鏡	TS119FEAY3	1	撤 去	
仕切板	A-100AY	1	撤 去	
床上掃除口	COA-65	1	撤 去	
床排水金具	T5A-50	1	撤 去	

【既存】女子トイレ 卫生器具表				
名 称	品 番	数 量	備 考	
和風便器	C375VF, S670B	2	撤 去	
掃除流し	SK-22A	1	撤 去	
洗面器(壁排水)	L221D	2	撤 去	
鏡	TS119FEAY3	2	撤 去	
床排水金具	T5A-50	1	撤 去	

【既存】多目的便トイレ衛生器具表				
名 称	品 番	数 量	備 考	
大便器	C48A, TV140B, 普通便座	1	撤 去	
手洗器	L21N	1	撤 去	
洗面器	L103	1	撤 去	
鏡	LM481	1	撤 去	
L型手摺	L=800	1	撤 去	
I型手摺	L=700 × 2	1	撤 去	
床上掃除口	COA-50	1	撤 去	
床上掃除口	COA-100	1	撤 去	
床排水金具	T5A-50	1	撤 去	

出図 A2 100% → A3 71%縮小

特記	有限会社 常石設備設計室 二級建築士事務所(高知県知事登録2077号) 二級建築士登録 第3590号(高知県) 管理建築士(常石 忠) 〒781-5108 高知市朝見台一丁目2407番地 Tel: 088-880-3566 Email: t004@kcb-net.ne.jp Fax: 088-880-3580	設計	工事名称 一宮ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事	設計年月 R06.09	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長	図面No.
						水関	戸田	木村	松本	M-06
			図面名称 既存衛生設備 1階トイレ平面詳細図	縮尺 1/50						



【改修】1階平面詳細図 S=1:50

床ダイヤドリル貫通箇所		
貫通径 × 厚み	給水	排水・通気
φ50 × 150L	7	
φ75 × 150L		
φ100 × 150L	9	
φ125 × 150L	5	
φ150 × 150L	2	

凡 例	
●	既設配管接続部を示す

【改修】バリアフリートイレ 衫生器具表		
名 称	参 考 品 番 (上段 : TOTO 下段 : LIXIL)	数 量
タンク式洋風便器 (多機能用) (壁給水・床排水)	CFS498BK, HE35JR, THE24, HM10J BC-P110SA, DQ-PA150CH, CWA-279, A-10472	1
洗浄乾燥脱臭暖房便座 (フタ無) (リモコン) (金属プレート)	TCF5841PR CW-PA21-NEC, 303-1009, CF-020-SET, CWA-123	1
背もたれ	EWC283CR, T110D3R×2 KFC-275T1U, KF-D16×3	1
紙巻器	YH117 CF-32H	1
L型手摺 (樹脂被覆) 段違い (特注品)	T112CL11, T110D3R×3 ※KFS-910AEW60D30, KF-D16×2, KFS-910AEW80D25, KF-D16×2	1
跳ね上げ手摺 (樹脂被覆)	※ (L型手摺×2) T112HK7R, T110D17S KF-471EH70JU, KF-D19	1
コンパクト手洗器 (自動水栓)	LSE570APS AWL-71U2AM(P)	1
車いす用洗面器 (自動水栓) (壁給水・壁排水) (AC100V)	L270D, TLE28SS1A, TLDP2105JA, TL220D L-275AN, AM-300CV1, LF-105PA, SF-10E, KF-30DN, A-6224	1
耐食鏡 (大)	YM6075F KF-6090A	1
ベビーチェア (平面タイプ)	YKA15S, YPH62017W, T110D28 AC-BK-F62, KF-D17(1P)×3	1
オストメイトパック (電気温水器付)	UAS81R(L)DB2NW, UTR141×2 PTOM-B210W, PTOM-ESCR×2	1
床上掃除口	COA-50 (シート露出防水用)	1
床上掃除口	COA-100 (シート露出防水用)	1

【改修】男子トイレ 衫生器具表		
名 称	参 考 品 番 (上段 : TOTO 下段 : LIXIL)	数 量
タンク式洋風便器 (壁給水・床排水)	CFS498BK, HE35JR, THE24, HM10J BC-P110PA, DQ-PA150PCH, CF-11P, CWA-279, A-10472	1
洗浄脱臭暖房便座 (フタ無) (リモコン)	TCF588Y CW-PB21-NEC, CF-020-SET	1
紙巻器	YH117 CF-32H	1
L型手摺 (樹脂被覆)	T112CL9, T110D3R×3 KF-920AE70D12J, KF-D16×3	1
小便器 (壁給水、壁排水) (AC100V)	UFS900R U-A51AP	2
小便器用手摺	T112GU22, T110D3R×4 KF-701AEJ, KF-D16×4	1
洗面器	L210C, TLE28SS1A, TLDP2105JA, TL250D L-132AG, AM-300CV1, LF-4PAL, SF-10E, LF-6L	1
耐食鏡	YM3545F KF-3545A	1
床上掃除口	COA-50	1
床上掃除口	COA-100	1

【改修】女子トイレ 衫生器具表		
名 称	参 考 品 番 (上段 : TOTO 下段 : LIXIL)	数 量
タンク式洋風便器 (床給水・床排水)	CFS498BK, HE35JR, THE24, HM10J BC-P110SA, DQ-PA150CH, CWA-279, A-10472	2
洗浄脱臭暖房便座 (フタ無) (リモコン)	TCF588Y CW-PB21-NEC, CF-020-SET	2
紙巻器	YH117 CF-32H	2
L型手摺 (樹脂被覆)	T112CL9, T110D3R×3 KF-920AE70D12J, KF-D16×3	1
洗面器	L210C, TLE28SS1A, TLDP2105JA, TL250D L-132AG, AM-300CV1, LF-4PAL, SF-10E, LF-6L	2
耐食鏡	YM3545F KF-3545A	2

出図 A2 100% → A3 71%縮小

図面No.
M-07

有限会社 常石設備設計室 二級建築士事務所 (高知県知事登録2077号) 二級建築士登録 第3599号 (高知県) 管理建築士 (常石 忠) 〒781-5108 高知市潮見台一丁目2407番地 Tel : 089-880-3566 E-mail t0048@cb-net.ne.jp Fax: 089-880-3560	設計	工事名称 一宮ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事	設計年月 R06.09	高知市都市建設部公共建築課	係	係長	課長補佐	課長
		図面名称 改修 衛生設備 1階トイレ平面詳細図	縮尺 1/50		水閥	電気	中古	松木

特
記

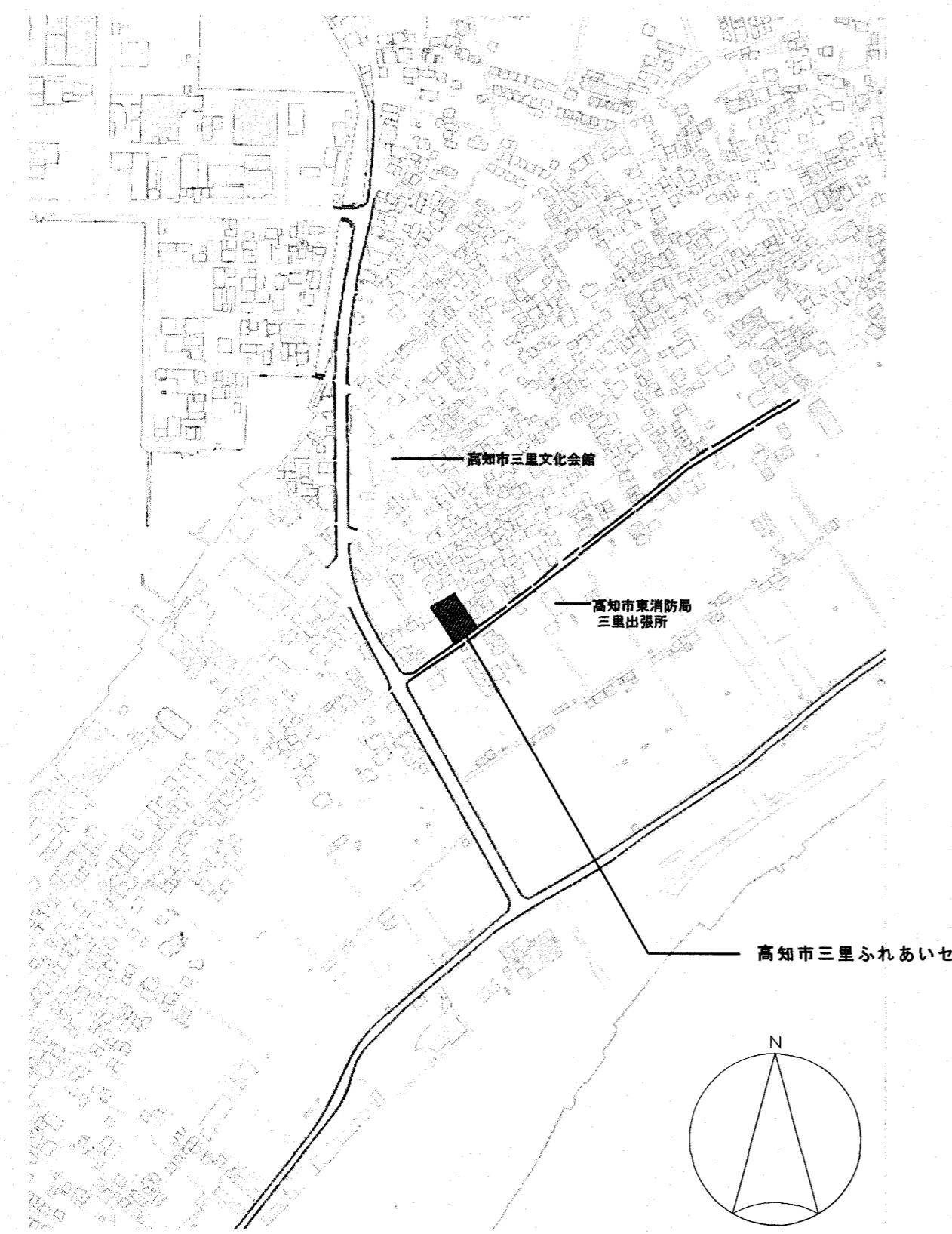
三里ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事

図面番号	図面名称	縮尺
M-01	特記仕様書（1）	NOSCALE
M-02	特記仕様書（2）	NOSCALE
M-03	配置図・附近見取図・工事概要	1:200
M-04	2階平面図	1:100
M-05	【換気設備】1階平面図(現況・撤去・改修図)	1:50
M-06	【換気設備】2階平面図(現況・撤去・改修図)	1:30
M-07	【衛生設備】2階平面詳細図(現況・撤去図)	1:30
M-08	【衛生設備】2階平面詳細図(改修図)	1:30

三里ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事 特記仕様書								項目	特記事項			項目	特記事項				
1 工事概要	高知市立井田4229番地2																
1 工事場所	高知市立井田4229番地2																
2 建物概要																	
建物名称	構造	階数	建築基準法に基づく 延べ面積	消防法施行令 別表第一	都市計画法に基づく 用途地域	備考											
三里ふれあいセンター	RC	2	574.7m ²														
3 工事項目																	
1. 三里ふれあいセンター																	
1 暖気設備	一式	4 排水設備	一式														
2 衛生器具設備	一式	5 撤去工事	一式														
3 給水設備	一式	6 発生材処理	一式														
4 関連工事等																	
①建築工事 ②電気設備工事 ③衛生設備工事 ④空調設備工事 ⑤植栽工事 ⑥外構工事 ⑦解体工事																	
5 標成工期	・完成期限の()日前 (令和 年 月 日)							16	就括安全衛生管理義務者の指名				23	特別な材料の工法	公共建築工事標準仕様書及び公共建築改修工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承諾を受けて当該材料製造所の指定する工法による。		
6 部分使用(工事請負契約書第34条第1項)								17	発生材の処理				24	技能士の適用	本工事に該当する工事種目に応じて、下記项目的技能士を適用し、資格を証明する資料を監督職員に提出する。		
II 設備工事仕様										a) 配管施工(配管工事)	(1.5.2) [1.6.2]						
1 特記仕様										b) 熱絶縁施工(保温工事)	(1.7.1) [1.8.2]						
1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。										c) 建築板金施工(ダクト製作及び取付)							
2) 特記事項は、○印の付かない場合は、※印の付いたものを適用する。○印と※印の付いた場合は、共に適用する。										d) 冷凍空気調和機器施工	(1.6.2) [1.6.2]						
3) 特記事項に記載の()内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。																	
4) 特記事項に記載の〔 〕内表示番号は、「公共建築改修工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。																	
5) 特記事項に記載の〈 〉内表示番号は、「建築業解体工事共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。																	
2. 通用基準等																	
3. 面及び特記仕様に記載されていない事項は、すべて国土交通省大臣官房官庁舎監修の以下による。																	
※ 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)令和4年版	※ 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)令和4年版																
※ 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)令和4年版	※ 公共建築改修工事標準仕様書(電気設備工事編)令和4年版																
※ 公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)令和4年版	※ 公共建築設備工事標準図(電気設備工事編)令和4年版																
※ 建築業解体工事共通仕様書 令和4年版																	
給水外線工事については、高知市水道局発行の「給水装置工事施工要領」による。																	
3. 「週休2日制モデル工事」の実施について																	
・発注者指定型	①受注者希望型																
本工事は、工事着手日から工事完成までの間の土曜日及び日曜日を現場の休工日の基本とする	「週休2日制モデル工事」の対象工事である。実施にあたっては高知市「週休2日制モデル工事」実施要領(當総工事編)による。																
(https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/123/syukyuhutsuka.html)	・対象外(理由):																
項目	特記事項																
一般共通事項																	
①官公署その他への手続き	工事の着手・施工・完成に当たり、関係官署への必要な届出手続き等を遅滞なく行う。 手続き等の費用は受注者の負担とするが、以下の費用については発注者が負担する。																
	(1.1.3) [1.1.3]																
②工事実績情報サービス(CORINS)への登録	登録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建築実績情報のコリンズ・テクリス登録等に関する規約」による。																
	(1.1.4) [1.1.4]																
③書類の書き式等	工事の着手に当たり、監督職員会議の下で設計図書等の照査及び施工監理資料作成の打合せを行い記録を整備する。 施工監理資料の内容及び水準は、監督職員が示す「施工監理資料一覧」による。																
	(1.1.5) [1.1.5]																
④総合工程表	原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者連名による総合工程表を監督職員に提出する。																
	(1.2.1) [1.2.1]																
⑤総合図	工事の施工に先立ち別途契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員の承認を受ける。																
	(1.2.3) [1.2.3]																
⑥施工図等の取扱い	施工図等の内、監督職員の承認を要するものについては、施工監理資料作成の打合せ時に協議する。 施工図等の著作権に關わる当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。																
	(1.2.3) [1.2.3]																
⑦工事日誌	週ごとに工事の全般的な経過及び次回の工事予定を記載した日誌を監督職員に提出する。 また、半月ごとに出来高を当初計画と共に記入し、月末には実施工量を添付する。																
	(1.2.4) [1.2.4]																
⑧工事写真	工事写真是J版程度とし、工事の内容、日付等必要事項を記入し1部提出する。(A4版台紙) 撮影方法は、国土交通大臣官房官庁舎監修「営繕工事写真撮影要領(令和5年版)・同解説工事写真の撮り方建築編」による。																
	(1.2.4) [1.2.4]																
⑨下請負者の報告	各下請負者については、下請負契約前に「下請施工予定報告書」にて監督職員に報告する。																
	10 電気保安技術者																
適用する	(1.3.2) [1.3.2]																
⑪施工条件	施工日及び施工時間																

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																																																										
機械設備特記事項																																																																																																																																																															
① 機械その他	<p>* 配管表記 (1.1.7.4準拠) [1.1.8.5準拠]</p> <p>a) 機械室・ピット・P.S内・天井点検口・配管分岐場所には必ず表記する。</p> <p>b) 表記内容は、液体・サイズ・系統名とし、場所・向き・文字サイズ等事前協議決定後に施工する。</p> <p>c) 説明の難易度は、原則としてJIS Z 9102によるものとし、識別方法・色合いは監督職員の指示による。</p> <p>* 機器表記 (該当する主要機器は事前に確認する。)</p> <p>a) 設計記号の付いている主要機器には、カッティングシート等にて表記 (管理番号・室名・設置年月等) を行う。</p> <p>b) パッケージエアコン等の空調機は、室内機だけでなく室外機にも表記を行う。</p> <p>c) 水中に設置する各種主要機器類は鉛管 (製造社名・製造年月・型番・性能等) を盤面付近にも設ける。</p> <p>* 箔には、開閉等を記入したアクリル札を付け、風で飛んだり離さないよう固定するか、表示方法を協議する。</p> <p>* 埋設弁ボックスには、内部に系統名・管サイズ・設置年月を書いたアクリル札を入れる。</p> <p>* 埋設弁ボックスの蓋は、蓋体の行き先側に蓋の付根を向ける。</p> <p>* 排水以外の屋外埋設管の埋め戻し時には、G.L.-150mm程度に標示表示用アルミテープを埋設する。</p>	11 メカニカル維手	<p>* メカニカル維手は伸縮可とう・離脱防止性能を有し、内外面エポキシ粉体塗装を施したものとする。</p> <p>* 改修工事等で钢管 (ライニング钢管) を切断して、やむを得ずメカニカル維手を使用する場合には、切断部の防錆処理として、JAWWA K 135規格適合品にて処置する。</p>	12 吊り及び支持	<p>* 原則として下図に従う。詳細は国土交通省仕様による。</p> <p>(2.2.6.3準拠) [2.2.4.3準拠]</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="10">横走り管の吊り及び振れ止め最大支持間隔</th> </tr> <tr> <th>分類</th> <th>15</th> <th>20</th> <th>25</th> <th>32</th> <th>40</th> <th>50</th> <th>65</th> <th>80</th> <th>100</th> <th>125</th> <th>150</th> <th>200</th> <th>250</th> <th>300</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>鋼管等</td> <td colspan="10">2.0m</td> <td colspan="4">3.0m</td> </tr> <tr> <td>吊り金物による吊り</td> <td colspan="10">1.0m</td> <td colspan="4">2.0m</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td colspan="10"></td> <td colspan="4"></td> </tr> <tr> <td>鋼管等</td> <td colspan="10">—</td> <td colspan="2">8.0m</td> <td colspan="2">12m</td> </tr> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td colspan="10">—</td> <td colspan="2">6.0m</td> <td colspan="2">8.0m</td> <td colspan="2">12m</td> </tr> <tr> <td>ビニル管等</td> <td colspan="10"></td> <td colspan="4"></td> </tr> </tbody> </table> <p>立て管の固定及び振れ止め箇所</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>固定</th> <th>鋼管等</th> <th>最下階の床又は最上階の床</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形鋼振れ止め支持</td> <td>鋼管等</td> <td>各階1箇所</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ビニル管等</td> <td>各階1箇所</td> </tr> </tbody> </table>	横走り管の吊り及び振れ止め最大支持間隔										分類	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300	鋼管等	2.0m										3.0m				吊り金物による吊り	1.0m										2.0m				ビニル管等															鋼管等	—										8.0m		12m		形鋼振れ止め支持	—										6.0m		8.0m		12m		ビニル管等															固定	鋼管等	最下階の床又は最上階の床	形鋼振れ止め支持	鋼管等	各階1箇所		ビニル管等	各階1箇所	24 構	<p>b) 維持管理を管理業者に引継ぐ場合は、直前に水質検査 (BOD・SS・PH・大腸菌・塩素イオン) を行い、そのコピーを管理業者、施設管理者、監督職員に渡し、設計・施工・現況の注意事項を申し送ること。</p> <p>* 見えやすい場所に、型式・施工者名・設置年月・処理能力・放流水量を記入した板を設置する。</p>																										
横走り管の吊り及び振れ止め最大支持間隔																																																																																																																																																															
分類	15	20	25	32	40	50	65	80	100	125	150	200	250	300																																																																																																																																																	
鋼管等	2.0m										3.0m																																																																																																																																																				
吊り金物による吊り	1.0m										2.0m																																																																																																																																																				
ビニル管等																																																																																																																																																															
鋼管等	—										8.0m		12m																																																																																																																																																		
形鋼振れ止め支持	—										6.0m		8.0m		12m																																																																																																																																																
ビニル管等																																																																																																																																																															
固定	鋼管等	最下階の床又は最上階の床																																																																																																																																																													
形鋼振れ止め支持	鋼管等	各階1箇所																																																																																																																																																													
	ビニル管等	各階1箇所																																																																																																																																																													
② 総合調整	<p>本工事に該当する工事種目に応じて、下記項目の総合調整を行い、計画書及び報告書を監督職員に提出する。</p> <p>a) 風量調整</p> <p>b) 水量・水圧調整</p> <p>c) 室内外空気の温湿度の測定</p> <p>d) 駆音の測定</p> <p>e) 室内気流及びじんあいの測定</p> <p>f) 飲料水の水質の測定</p> <p>なお、季節により運転条件が異なる、使用開始から定常状態に入るまでに時間を要する等の理由により、工期内の測定完了が不可能な調整項目の対応については、監督職員との協議による。</p> <p>(2.1.3.3準拠) [2.1.3.3準拠]</p>	13 埋設管の保護	<p>* 國土交通省仕様どおりに吊り配管等を施工しても、他の資材配管等と干渉する場合は振止めを適宜設ける。</p> <p>* 屋外等で吊り金物による施工ができない場合には、ブレケット等にて配管及び配管付属品を支持し、配管荷重による管の移動を抑える。</p>	14 埋設深さ	<p>皆の地中埋設深さは、原則として車両道路では管の上端より600mm以上、それ以外では300mm以上とする。ただし、寒冷地では凍結深度以上とする。</p> <p>(2.2.7.2) [2.2.5.2]</p>	15 防食措置	<p>* 鋼管、船管のコンクリート内配管にはプラスチックテープ1/2重ね1回巻きとする。</p> <p>(2.2.5.3準拠) [2.2.7.3準拠]</p> <p>* 地中に埋設する鋼鉄管・錆鉄異形管・メカニカル維手・特殊維手類にはポリエチレンストリーブ等の被覆を講じること。</p> <p>[給水装置工事施工要領]</p>	16 保溫工事	<p>保溫の種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>室内露出</th> <th>機械室・倉庫</th> <th>天井・P.S内</th> <th>床下暗渠内</th> <th>屋外露出</th> <th>屋外埋設</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>冷温水</td> <td>a(B) VII</td> <td>—</td> <td>C2(B) VII</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>排水</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>屋内空調用ドレン管は保溫材付き</td> </tr> <tr> <td>給湯</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>断熱材被覆鋼管の場合</td> </tr> <tr> <td>冷媒管</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>形鋼ダクト</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>丸形ダクト</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>弁・維手類</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>保溫材の厚さは各工種に準拠</td> </tr> </tbody> </table> <p>(i) ロックウール保溫材 (ii) グラスウール保溫材 (iii) ポリスチレンフォーム保溫材</p> <p>(c) 簡易保溫筋10mm (d) 簡易保溫筋20mm (e) 簡易耐熱保溫筋10mm (f) 簡易耐熱保溫筋20mm</p> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。</p> <p>(2.3.1.1準拠) [2.3.1.1準拠]</p>	場所	室内露出	機械室・倉庫	天井・P.S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	備考	冷温水	a(B) VII	—	C2(B) VII	—	—	—	—	排水	—	—	—	—	—	—	屋内空調用ドレン管は保溫材付き	給湯	—	—	—	—	—	—	断熱材被覆鋼管の場合	冷媒管	—	—	—	—	—	—	—	形鋼ダクト	—	—	—	—	—	—	—	丸形ダクト	—	—	—	—	—	—	—	弁・維手類	—	—	—	—	—	—	保溫材の厚さは各工種に準拠	20 別途工事	<p>* 施設の分類</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">設置場所</th> <th colspan="3">耐震安全性の分類</th> </tr> <tr> <th>特定の施設</th> <th>一般の施設</th> <th>重要機器</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">耐震クラス</td> <td>S</td> <td>A</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>上層階、屋上及び塔屋</td> <td>2.0 (2.0) [2.0]</td> <td>1.5 (2.0) [1.5]</td> <td>1.0 (1.5) [1.0]</td> </tr> <tr> <td>中間階</td> <td>1.5 (1.5) [1.5]</td> <td>1.0 (1.5) [1.0]</td> <td>0.6 (1.0) [0.6]</td> </tr> <tr> <td>1階及び地下階</td> <td>1.0 (1.0) [1.5]</td> <td>0.6 (1.0) [1.0]</td> <td>0.4 (0.6) [0.6]</td> </tr> </tbody> </table> <p>() 内の数値は防震支持の機器の場合、[] 内の数値は水槽類の場合に適用する。</p>	設置場所	耐震安全性の分類			特定の施設	一般の施設	重要機器	耐震クラス	S	A	B	上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) [2.0]	1.5 (2.0) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	中間階	1.5 (1.5) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	0.6 (1.0) [0.6]	1階及び地下階	1.0 (1.0) [1.5]	0.6 (1.0) [1.0]	0.4 (0.6) [0.6]																																																													
場所	室内露出	機械室・倉庫	天井・P.S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	備考																																																																																																																																																								
冷温水	a(B) VII	—	C2(B) VII	—	—	—	—																																																																																																																																																								
排水	—	—	—	—	—	—	屋内空調用ドレン管は保溫材付き																																																																																																																																																								
給湯	—	—	—	—	—	—	断熱材被覆鋼管の場合																																																																																																																																																								
冷媒管	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																								
形鋼ダクト	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																								
丸形ダクト	—	—	—	—	—	—	—																																																																																																																																																								
弁・維手類	—	—	—	—	—	—	保溫材の厚さは各工種に準拠																																																																																																																																																								
設置場所	耐震安全性の分類																																																																																																																																																														
	特定の施設	一般の施設	重要機器																																																																																																																																																												
耐震クラス	S	A	B																																																																																																																																																												
	上層階、屋上及び塔屋	2.0 (2.0) [2.0]	1.5 (2.0) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]																																																																																																																																																											
	中間階	1.5 (1.5) [1.5]	1.0 (1.5) [1.0]	0.6 (1.0) [0.6]																																																																																																																																																											
1階及び地下階	1.0 (1.0) [1.5]	0.6 (1.0) [1.0]	0.4 (0.6) [0.6]																																																																																																																																																												
③ 配管材料	<p>配管の種別</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>場所</th> <th>室内露出</th> <th>天井P.S内</th> <th>床下暗渠内</th> <th>屋外露出</th> <th>屋外埋設</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>給水</td> <td>(16)</td> <td>(16) </td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>排水・通気</td> <td></td> <td>(13)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>125A以上はVU</td> </tr> <tr> <td>給湯</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>消火</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ガス</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷媒</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>機器ドレン</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷温水</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>冷却水</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(1) 配管用炭素鋼管 (SGP管: JIS G 3452)</td> <td>(13) 耐火二層管 (内管VP)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(2) 配管用炭素鋼管 (SGP白管: JIS G 3452)</td> <td>(14) 硬質ボリューム化ビニル管 (VP: JIS K 6742)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(3) 水道用硬質塩化ビニンガム管 (JWW-VB: JWWA K 116)</td> <td>(15) 硬質ボリューム化ビニル管 (VP-VU: JIS K 6741)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(4) 水道用硬質塩化ビニンガム管 (SGP-VD: JWWA K 116)</td> <td>(16) 耐衝撃性硬質ボリューム化ビニル管 (HVP: JIS K 6742)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(5) 水道用耐熱性硬質塩化ビニンガム管 (SGP-HVA: JWWA K 140)</td> <td>(17) 耐熱性硬質ボリューム化ビニル管 (HT: JIS K 6776)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(6) 消火用硬質塩化ビニル外表面被覆鋼管 (SGP-VS: WSP 041)</td> <td>(18) 水道配水管用リフレッシュ管 (JWWA K 144)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(7) 排水用硬質塩化ビニンガム管 (D-VA: WSP 042)</td> <td>(19) 消火用ボリューム管</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(8) 配管用プラスチック鋼管 (SUS 304 TP-A: JIS G 3459)</td> <td>(20) ガス用硬質塩化ビニル外表面被覆鋼管</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(9) 一般配管用ボリューム管 (SUS 304 TPD: JIS G 3448)</td> <td>(21) ガス用ボリューム管 (JIS K 6774)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(10) 断熱材被覆鋼管 (JCDA 0009)</td> <td>(22) 硬質ボリューム化ビニル管 (JIS K 6741)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(11) 水道用聚丙烯管 (JIS K 6787)</td> <td>(23) 保溫材付空調用ドレン管 (JIS C 8430準拠: JIS K 6741)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>(12) 水道用ボリューム化ビニル管 (JIS K 6762)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody></table> <p>設計図面に個別の記載があるものについてはこれによらない。</p> <p>(2.2.1.2準拠) [2.2.1.2準拠]</p>	場所	室内露出	天井P.S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	備考	給水	(16)	(16)					排水・通気		(13)				125A以上はVU	給湯							消火							ガス							冷媒							機器ドレン							冷温水							冷却水							(1) 配管用炭素鋼管 (SGP管: JIS G 3452)	(13) 耐火二層管 (内管VP)						(2) 配管用炭素鋼管 (SGP白管: JIS G 3452)	(14) 硬質ボリューム化ビニル管 (VP: JIS K 6742)						(3) 水道用硬質塩化ビニンガム管 (JWW-VB: JWWA K 116)	(15) 硬質ボリューム化ビニル管 (VP-VU: JIS K 6741)						(4) 水道用硬質塩化ビニンガム管 (SGP-VD: JWWA K 116)	(16) 耐衝撃性硬質ボリューム化ビニル管 (HVP: JIS K 6742)						(5) 水道用耐熱性硬質塩化ビニンガム管 (SGP-HVA: JWWA K 140)	(17) 耐熱性硬質ボリューム化ビニル管 (HT: JIS K 6776)						(6) 消火用硬質塩化ビニル外表面被覆鋼管 (SGP-VS: WSP 041)	(18) 水道配水管用リフレッシュ管 (JWWA K 144)						(7) 排水用硬質塩化ビニンガム管 (D-VA: WSP 042)	(19) 消火用ボリューム管						(8) 配管用プラスチック鋼管 (SUS 304 TP-A: JIS G 3459)	(20) ガス用硬質塩化ビニル外表面被覆鋼管						(9) 一般配管用ボリューム管 (SUS 304 TPD: JIS G 3448)	(21) ガス用ボリューム管 (JIS K 6774)						(10) 断熱材被覆鋼管 (JCDA 0009)	(22) 硬質ボリューム化ビニル管 (JIS K 6741)						(11) 水道用聚丙烯管 (JIS K 6787)	(23) 保溫材付空調用ドレン管 (JIS C 8430準拠: JIS K 6741)						(12) 水道用ボリューム化ビニル管 (JIS K 6762)							21 パッケージ形空気調和機	<p>新工事においては、原則としてあと施工アンカーは使用しない。</p> <p>使用する場合には、工事の着手に先立ち施工計画書を作成し、監督職員の承諾を受ける。あと施工アンカー作業における技能者は、あと施工アンカー工事の施工に関する十分な経験と技能を有するものとする。</p>	22 ダクト及びダクト付属品	<p>機器仕様</p> <p>a) グリーン購入法基準適合品とし、各メーカーの最高効率機種とする。</p> <p>b) 天井・壁面・床面等の配管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>c) 室内機仕様</p> <p>d) ドレンアップメカにより排水する場合は、機器直近に鳥居形状に配管し、立下り部直上に排水口を設ける。</p> <p>e) 配管化粧カバーは、エンドキャップを使用してテープ巻きの範囲を最小限とし、ジャバラ部材は使用しない。</p> <p>f) 配管化粧カバー・配管ラッピングは室外機の直近まで施す。</p> <p>g) 室内機及び室外機への電源取り扱いは電気設備工事とし、室外機側の配管は電気配管工事とする。</p> <p>h) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>i) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>j) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>k) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>l) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>m) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>n) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>o) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>p) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>q) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>r) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>s) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>t) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>u) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>v) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>w) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>x) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>y) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>z) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>aa) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>bb) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>cc) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>dd) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ee) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ff) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>gg) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>hh) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ii) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>jj) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>kk) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ll) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>mm) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>nn) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>oo) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>pp) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>qq) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>rr) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ss) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>tt) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>uu) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>vv) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ww) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>xx) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>yy) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>zz) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>aa) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>bb) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>cc) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>dd) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ee) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ff) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>gg) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>hh) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ii) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>jj) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>kk) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ll) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>mm) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>nn) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>oo) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>pp) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>qq) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>rr) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ss) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>tt) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>uu) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>vv) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ww) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>xx) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>yy) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>zz) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>aa) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>bb) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>cc) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>dd) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ee) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ff) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>gg) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>hh) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ii) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>jj) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>kk) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ll) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>mm) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>nn) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>oo) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>pp) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>qq) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>rr) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ss) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>tt) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>uu) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>vv) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p>ww) 冷媒管の内側に施工する場合は、内側に施工する。</p> <p></p>
場所	室内露出	天井P.S内	床下暗渠内	屋外露出	屋外埋設	備考																																																																																																																																																									
給水	(16)	(16)																																																																																																																																																													
排水・通気		(13)				125A以上はVU																																																																																																																																																									
給湯																																																																																																																																																															
消火																																																																																																																																																															
ガス																																																																																																																																																															
冷媒																																																																																																																																																															
機器ドレン																																																																																																																																																															
冷温水																																																																																																																																																															
冷却水																																																																																																																																																															
(1) 配管用炭素鋼管 (SGP管: JIS G 3452)	(13) 耐火二層管 (内管VP)																																																																																																																																																														
(2) 配管用炭素鋼管 (SGP白管: JIS G 3452)	(14) 硬質ボリューム化ビニル管 (VP: JIS K 6742)																																																																																																																																																														
(3) 水道用硬質塩化ビニンガム管 (JWW-VB: JWWA K 116)	(15) 硬質ボリューム化ビニル管 (VP-VU: JIS K 6741)																																																																																																																																																														
(4) 水道用硬質塩化ビニンガム管 (SGP-VD: JWWA K 116)	(16) 耐衝撃性硬質ボリューム化ビニル管 (HVP: JIS K 6742)																																																																																																																																																														
(5) 水道用耐熱性硬質塩化ビニンガム管 (SGP-HVA: JWWA K 140)	(17) 耐熱性硬質ボリューム化ビニル管 (HT: JIS K 6776)																																																																																																																																																														
(6) 消火用硬質塩化ビニル外表面被覆鋼管 (SGP-VS: WSP 041)	(18) 水道配水管用リフレッシュ管 (JWWA K 144)																																																																																																																																																														
(7) 排水用硬質塩化ビニンガム管 (D-VA: WSP 042)	(19) 消火用ボリューム管																																																																																																																																																														
(8) 配管用プラスチック鋼管 (SUS 304 TP-A: JIS G 3459)	(20) ガス用硬質塩化ビニル外表面被覆鋼管																																																																																																																																																														
(9) 一般配管用ボリューム管 (SUS 304 TPD: JIS G 3448)	(21) ガス用ボリューム管 (JIS K 6774)																																																																																																																																																														
(10) 断熱材被覆鋼管 (JCDA 0009)	(22) 硬質ボリューム化ビニル管 (JIS K 6741)																																																																																																																																																														
(11) 水道用聚丙烯管 (JIS K 6787)	(23) 保溫材付空調用ドレン管 (JIS C 8430準拠: JIS K 6741)																																																																																																																																																														
(12) 水道用ボリューム化ビニル管 (JIS K 6762)																																																																																																																																																															

附近見取図



仮設トイレ

簡易水洗式・腰掛便器タイプ・汲み取り式・消毒液×4本

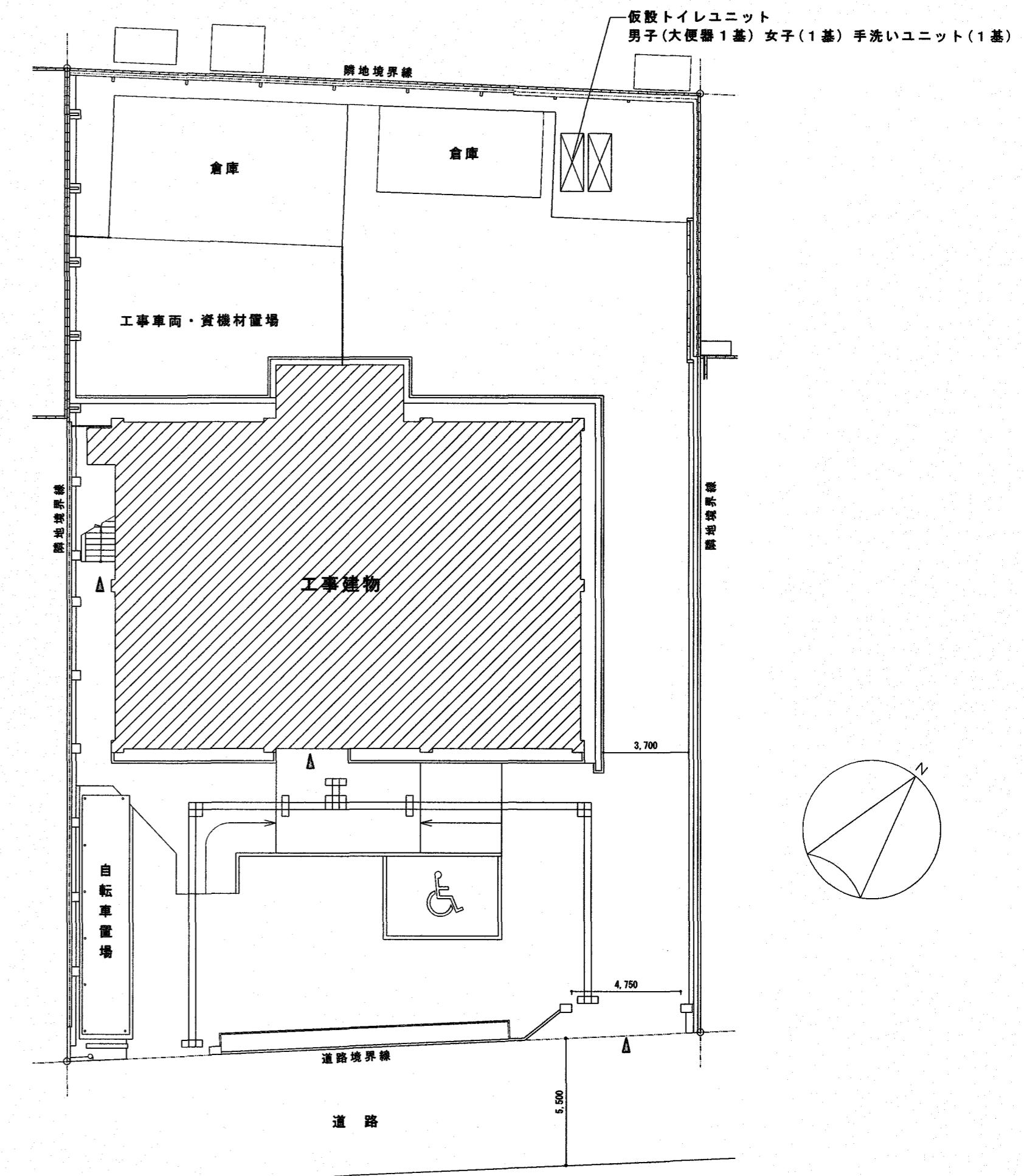
※仮設トイレはリース品とする。

※設置期間は、90日とする。

※設置期間中の保守管理(清掃・備品管理)は、別途とする。

※設置位置は施設関係者と協議の上決定する事。

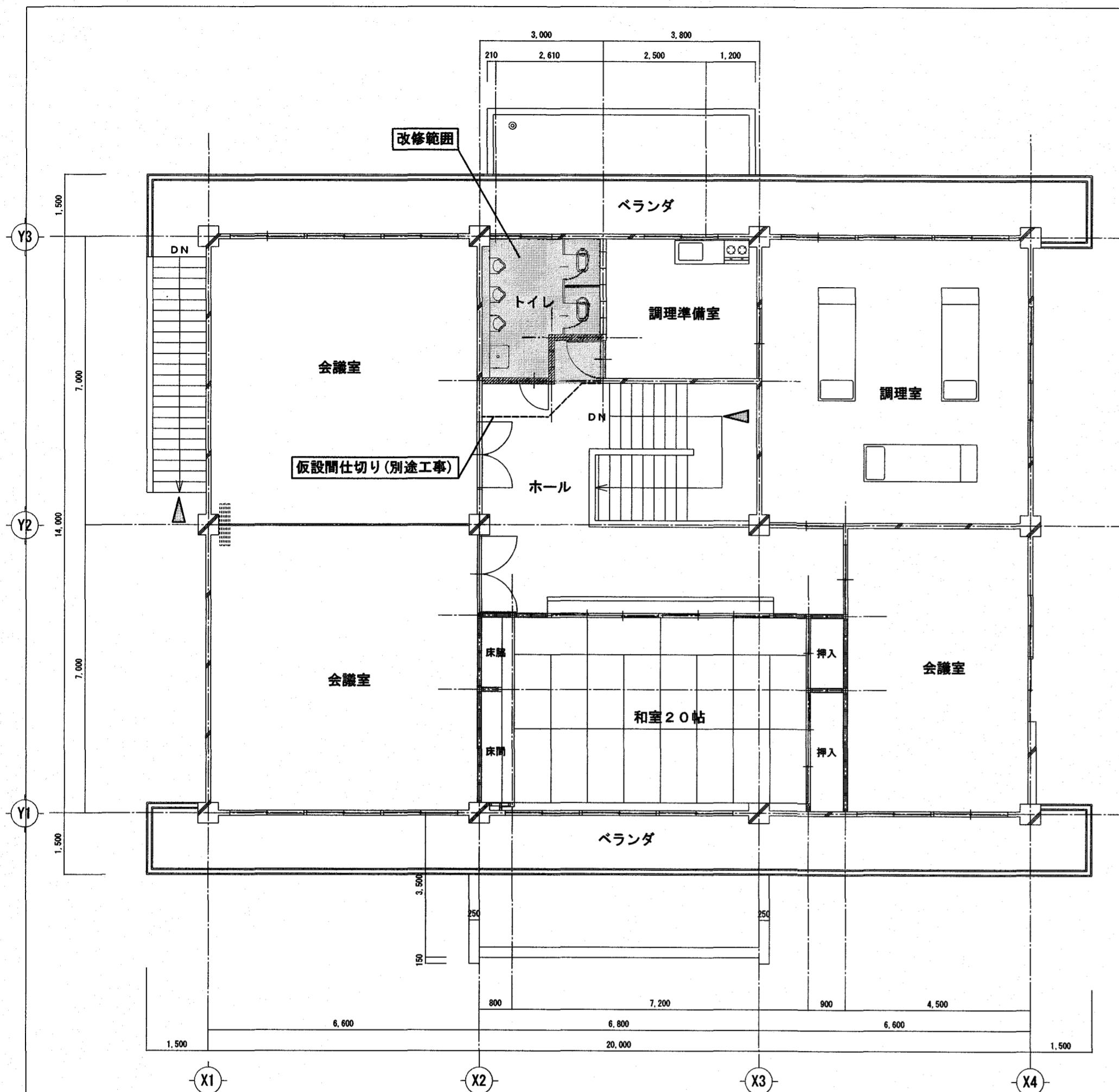
※仮設給水配管20A、屋外手洗器より取水(25m程度)



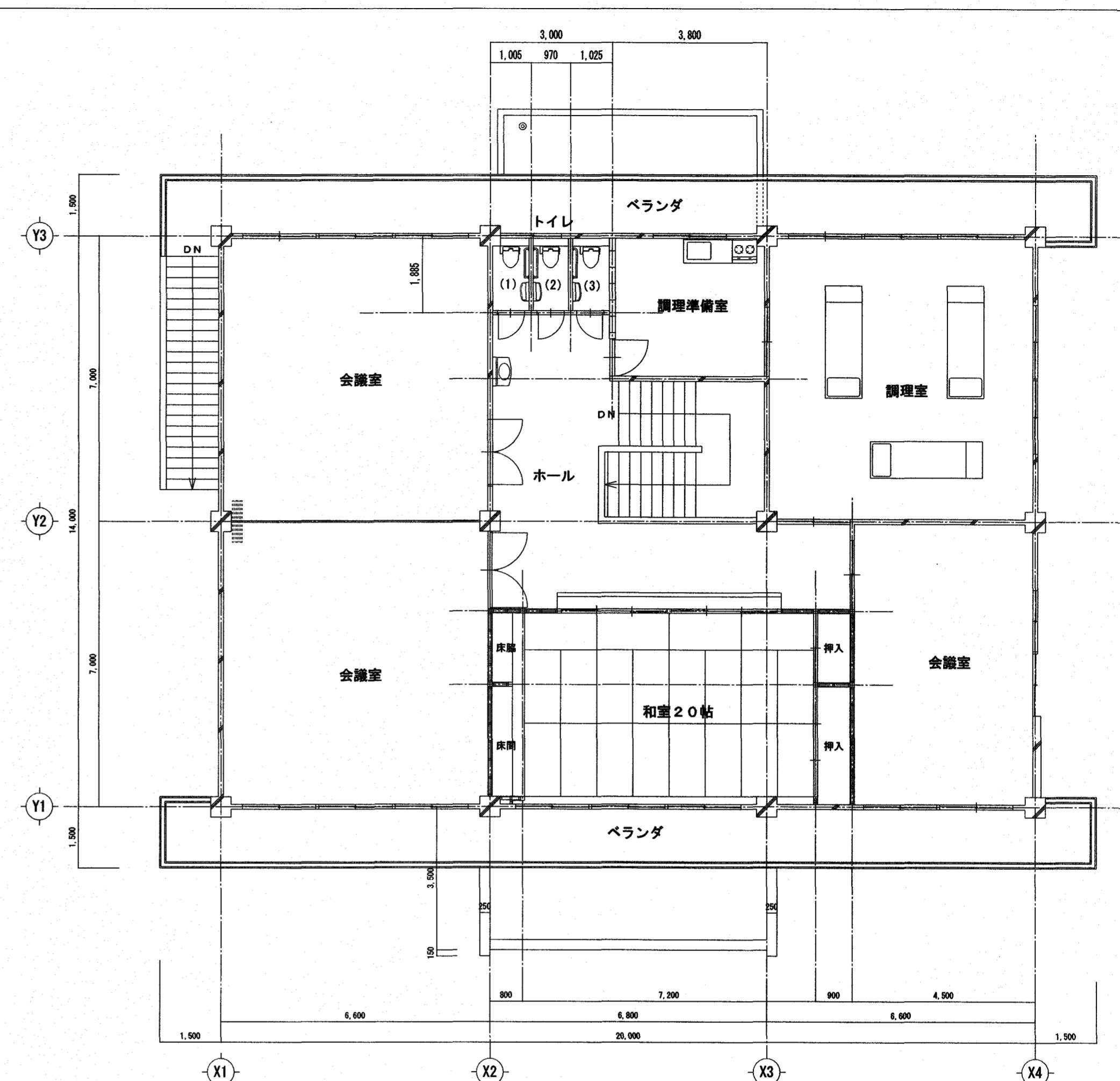
配置図・仮設計画図 S=1/200

—— : 仮囲いを示す。 (別途工事)

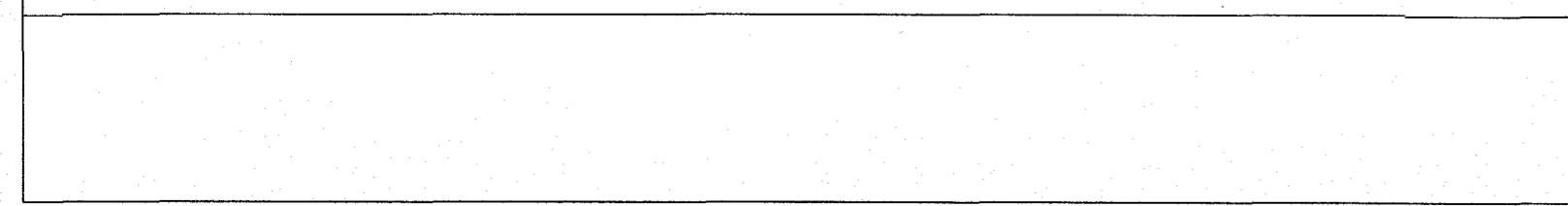
△ : 工事出入口を示す。



2階平面図（改修前）S=1/100

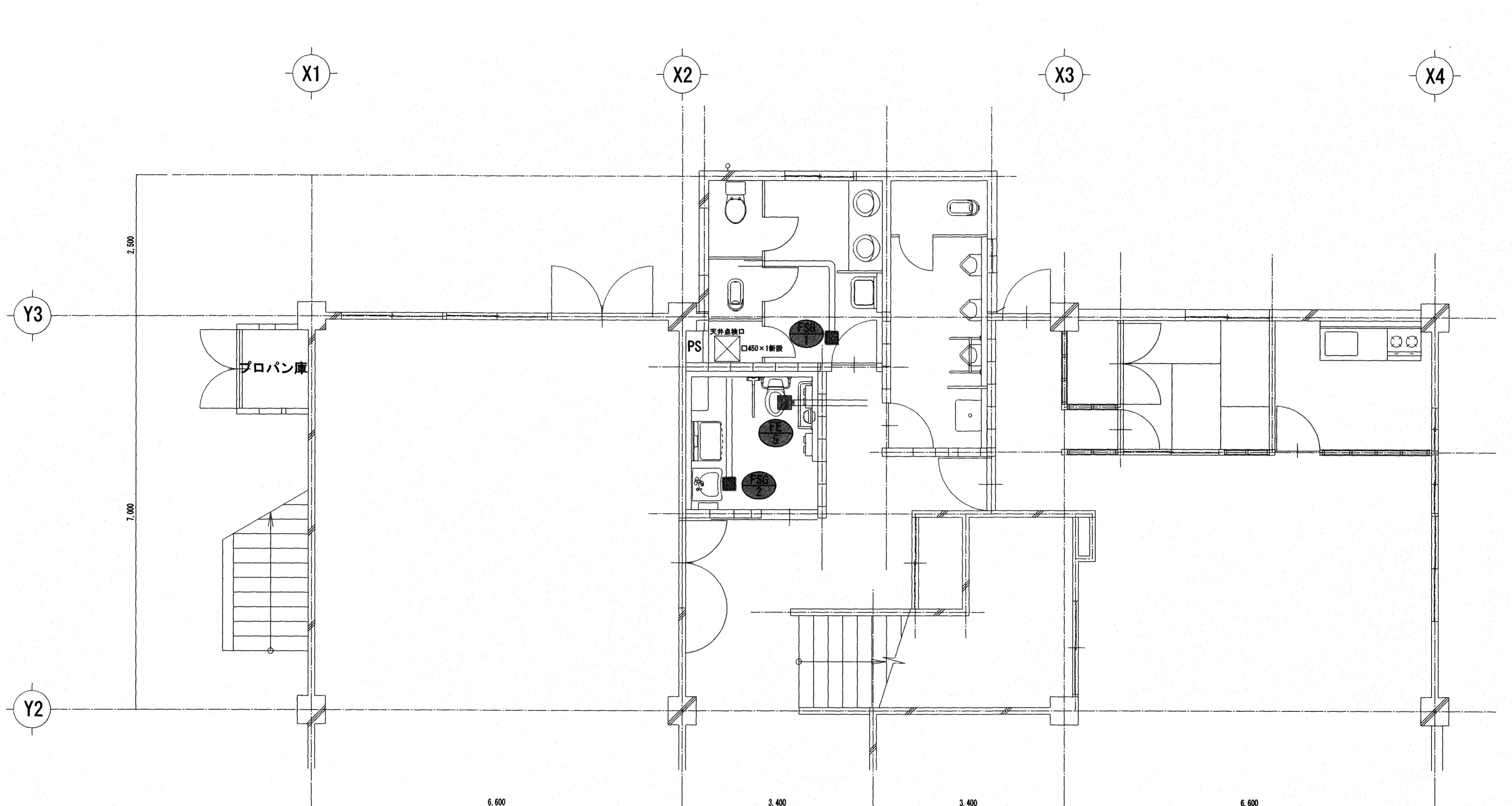


2階平面図（改修後）S=1/100



高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
三里ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事	水関	戸田	中村	松木	M - 04
図面名 2階平面図	縮尺 1:100	R6年 9月 日			



1階平面図 S=1:50

〔換気〕取外し・再取付機器リスト

記号	機器名称	摘要	処理能力	出力	電源	備考	台数
■	天井換気扇	167m ³ /h	—	—	1φ-100V 三菱電機(株) VD-15Z 鋼板製紙盤音形 1φ100V 換気パイプ: VU150Φ	1	
●	給排気グリル	—	—	—	—	全閉可能 風量調節機能付き(フィルター付き) 排気パイプ: VU 200Φ	1
△	給排気グリル	—	—	—	—	全閉可能 風量調節機能付き(フィルター付き) 排気パイプ: VU 200Φ	1

※機器直近の1m程度はカスパキンアームで更新とする。

(換気) 撤去機器リスト

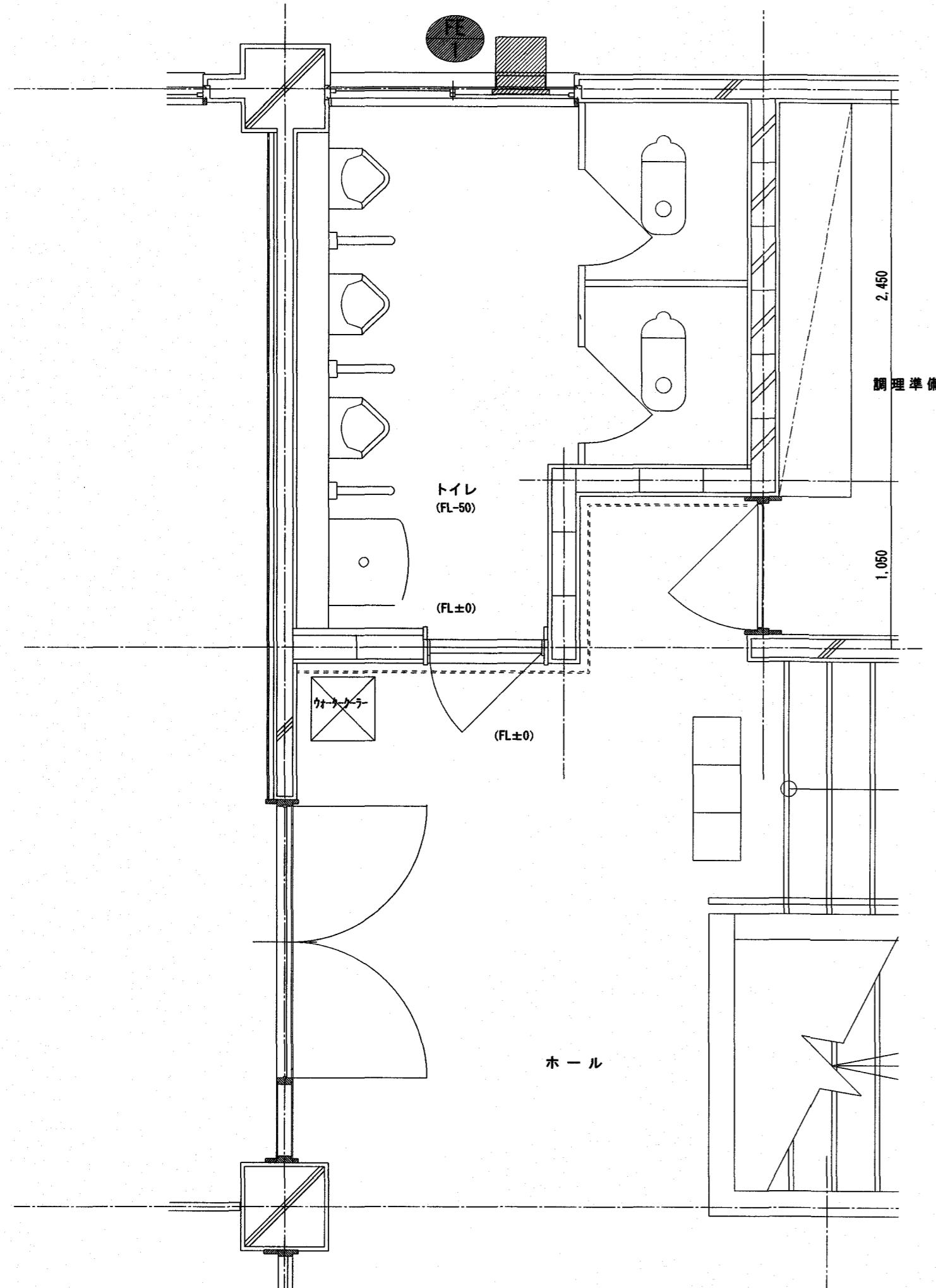
記号	機器名称	摘要	処理能力	出力	電源	備考	台数
	標準換気扇	Φ 300	—	—	1φ-100V	Φ300用カバー 木枠共	1

既設換気扇 撤去後アドバ・補修

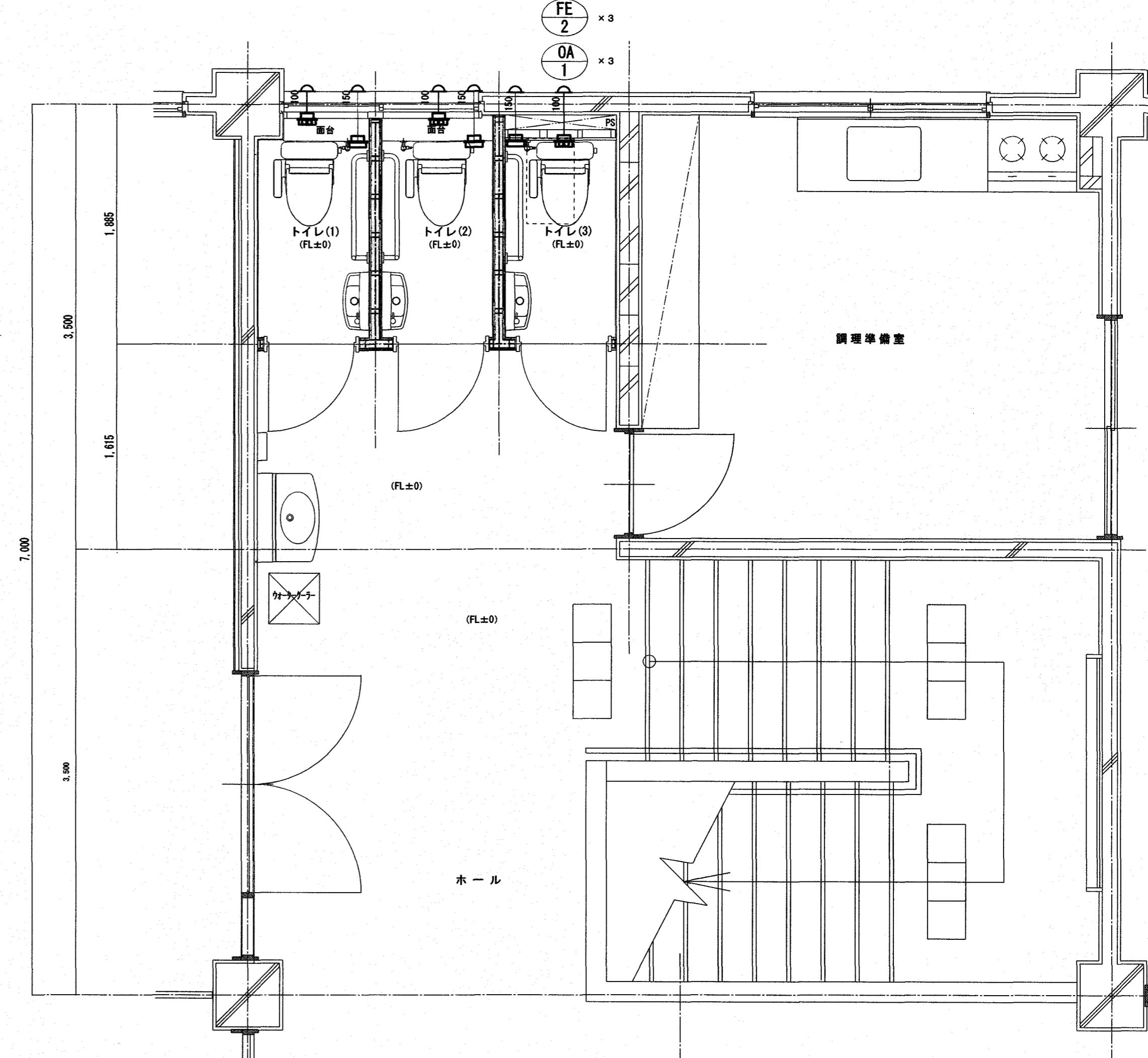
(換気) 新設機器リスト

記号	機器名称	摘要	処理能力	出力	電源	備考	台数
	FE 2 バイブファン	80m³/h (43m³/h以上)	—	—	1φ-100V	Φ100×50mm OH-OFFスイッチ 電気式シャッター 屋外:SUS製深型フード(ガリ、水切、防虫網付)	3
	OA 1 自然吸気口 壁取付	—	—	—	—	Φ150、格子形、風量調整機構、フィルター付 屋外:SUS製深型フード(ガリ、水切、防虫網付)	3

*壁貫通(アイシンドコ)(Φ150-150L)×3、(Φ175-150L)×3と面合穴明作業は本工事

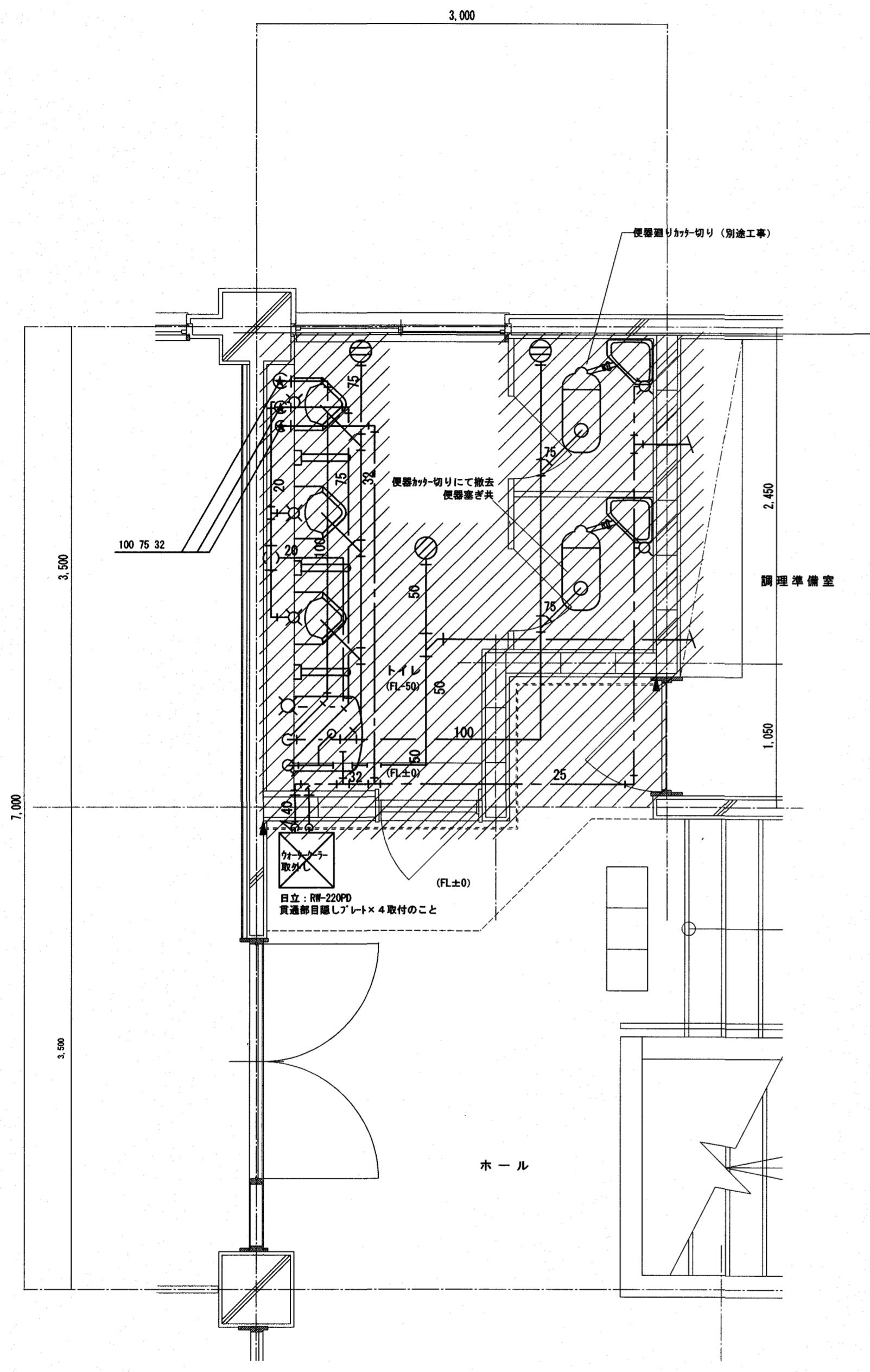


2階平面詳細図(改修前) S=1/30



2階平面詳細図(改修後) S=1/30

高知市 都市建設部 公共建築課	工事名	係	係長	課長指佐	課長	図面番号
	三里ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事	水門	戸田	中村	松本	M - 06
	図面名 【換気設備】2階平面図(現況・撤去・改修図)	縮尺 1:30	作図 R6年 9月 日			



2階平面詳細図 S=1/30

【既存】男子トイレ 卫生器具表			
名 称	品 番	数 量	備 考
和風便器		2	撤去
小便器		3	撤去
洗面器(壁排水)		1	撤去
鏡		1	撤去
仕切板		3	撤去
擬音装置		2	撤去
L型手摺		2	撤去
床上掃除口	COA-80	2	撤去
床排水金具	T5A-50	1	撤去

既設配管貫通穴埋め補修(床)			
貫通径 × 厚み	給水	排水・通気	
φ 50 × 150L	5		
φ 75 × 150L			
φ 100 × 150L		7	
φ 125 × 150L		2	
φ 150 × 150L			

和便器撤去跡方の補修は建築工事

凡 例	
	機器及び配管を本工事にて撤去・処分する
★	配管切断箇所

高知市 都市建設部 公共建築課

工事名	係	係長	課長指佐	課 長	図面番号
三里ふれあいセンタートイレ改修機械設備工事					M - 07
図面名 【衛生設備】2階平面詳細図(現況・撤去図)	縮尺 1:30	作図	R6年 9月 日		

